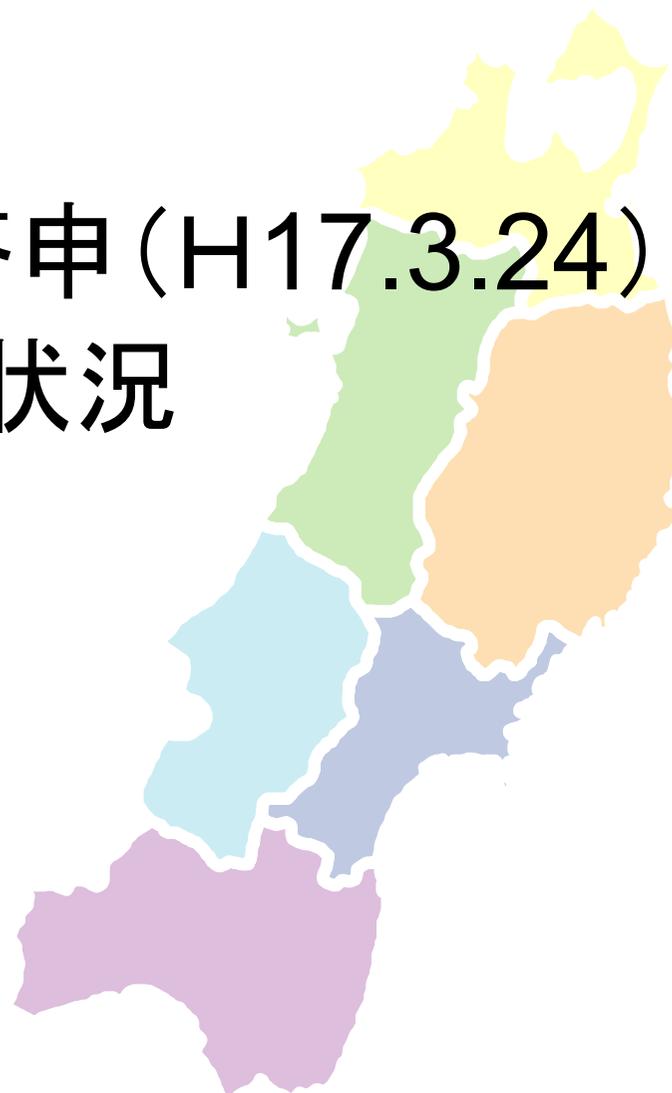


# 東北地方交通審議会答申(H17.3.24) 施策の実施状況



## 第1部

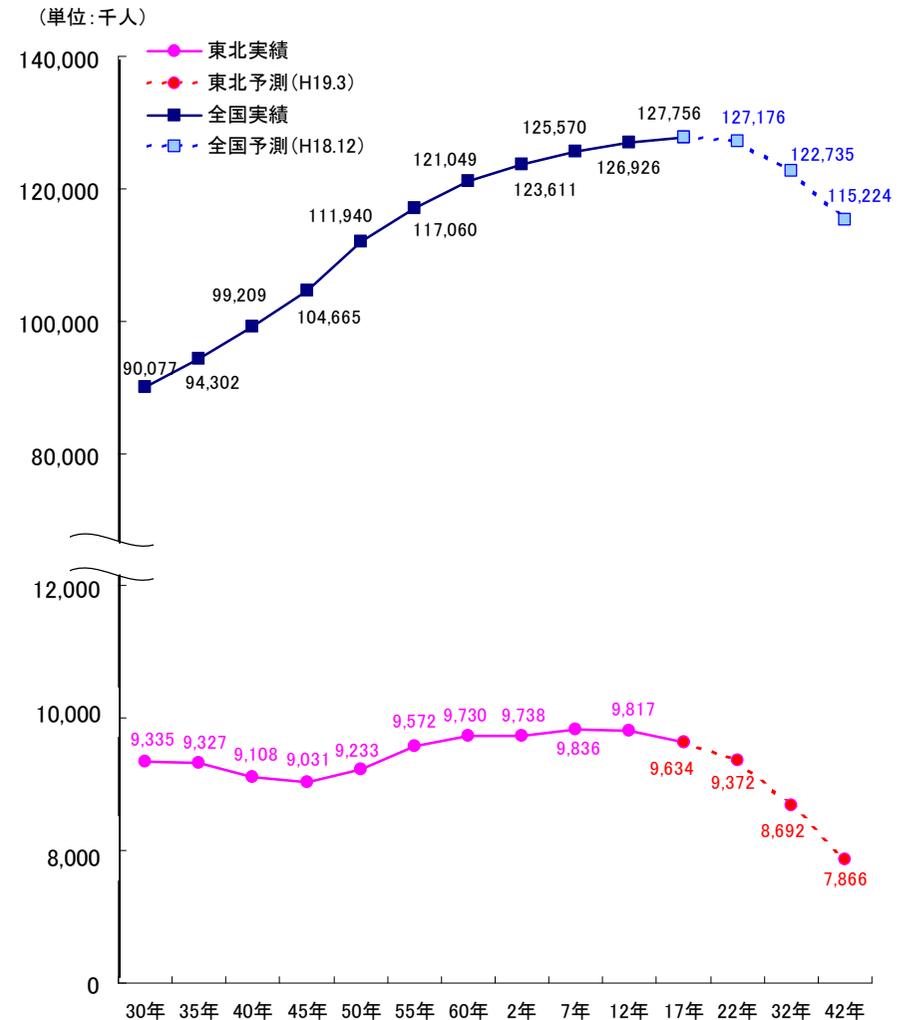
# 東北地方における 交通・観光に関する現況



## (1) 東北地方の人口等の動向

### ✦ 人口推移と今後の動向(全国・東北全体)

- 東北地方の人口は、平成7年をピークに減少が始まっている。
- 最新の推計によると、平成42年には787万人まで減少するものと予測されている。



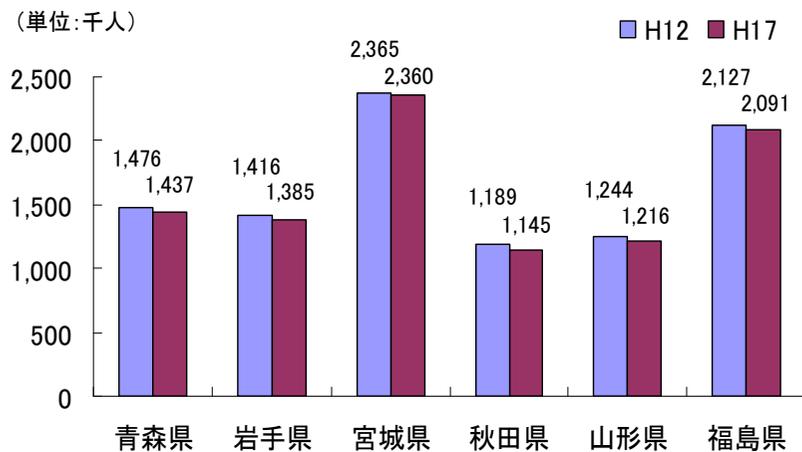
(資料)実績値は各年国勢調査。予測値は国立社会保障・人口問題研究所

# (1) 東北地方の人口等の動向

## ⊕ 人口推移と今後の動向(東北各県)

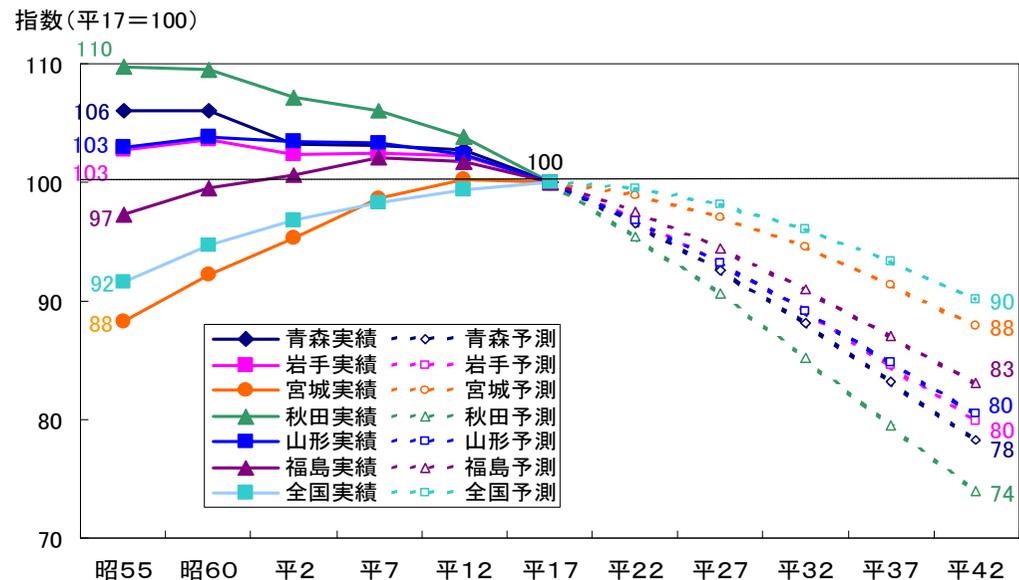
- 宮城県、福島県では人口増加が続いていたものの、平成12年から17年にかけては減少に転じている。
- 一方、青森県、岩手県、秋田県、山形県は、昭和60年頃より人口が減少しており、今後も減少傾向が続き、特に秋田県では平成42年には平成17年に比べて26%も減少することが予測されている。

県別人口



(資料)各年国勢調査

人口推移と今後の動向  
(全国と東北各県)

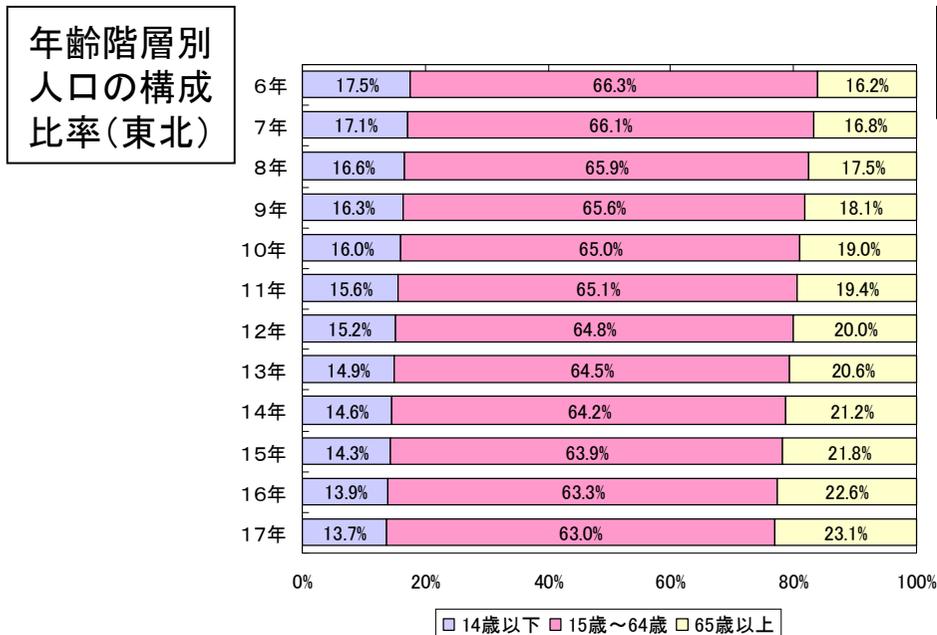


(資料)実績値は各年国勢調査。予測値は国立社会保障・人口問題研究所(平成14年3月)

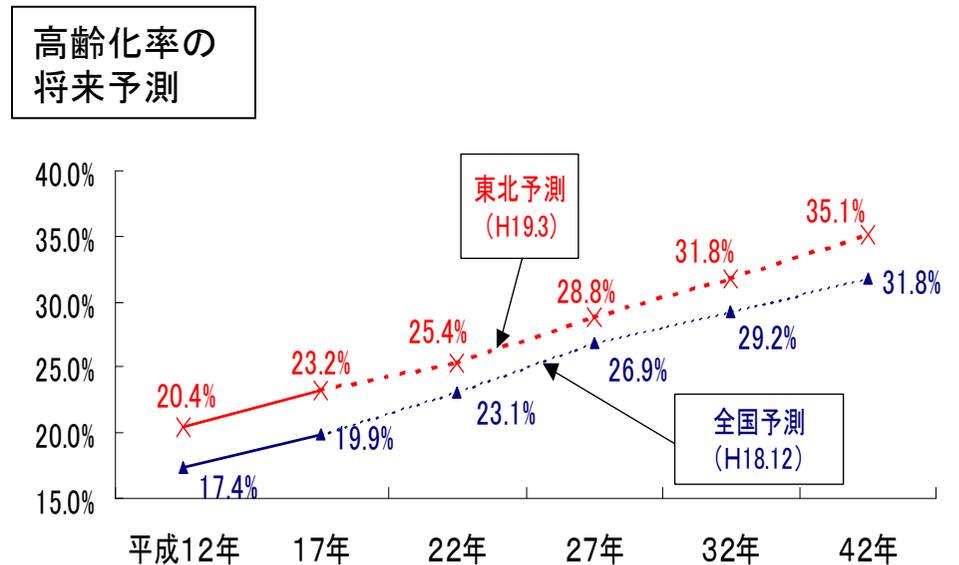
# (1) 東北地方の人口等の動向

## ✦ 少子高齢化の進展(全国・東北全体)

- 少子高齢化が進展しており、今後も全国よりも高い割合で高齢化が進むことが予測されている。



(資料)各年住民基本台帳



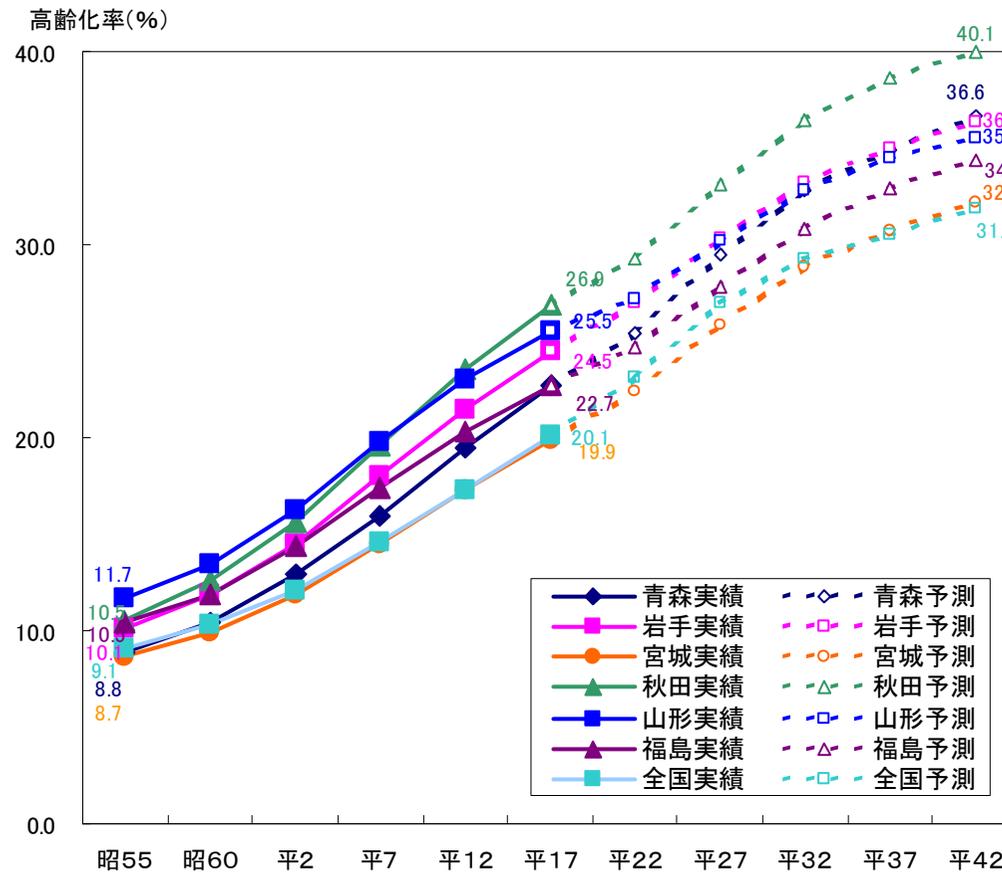
(資料)国立社会保障・人口問題研究所 都道府県の将来推計人口  
(平成18年12月、平成19年3月)

# (1) 東北地方の人口等の動向

## ❖ 少子高齢化の進展(東北各県)

- 各県とも高齢化率が上昇しているが、中でも秋田県の高齢化が進んでいる。

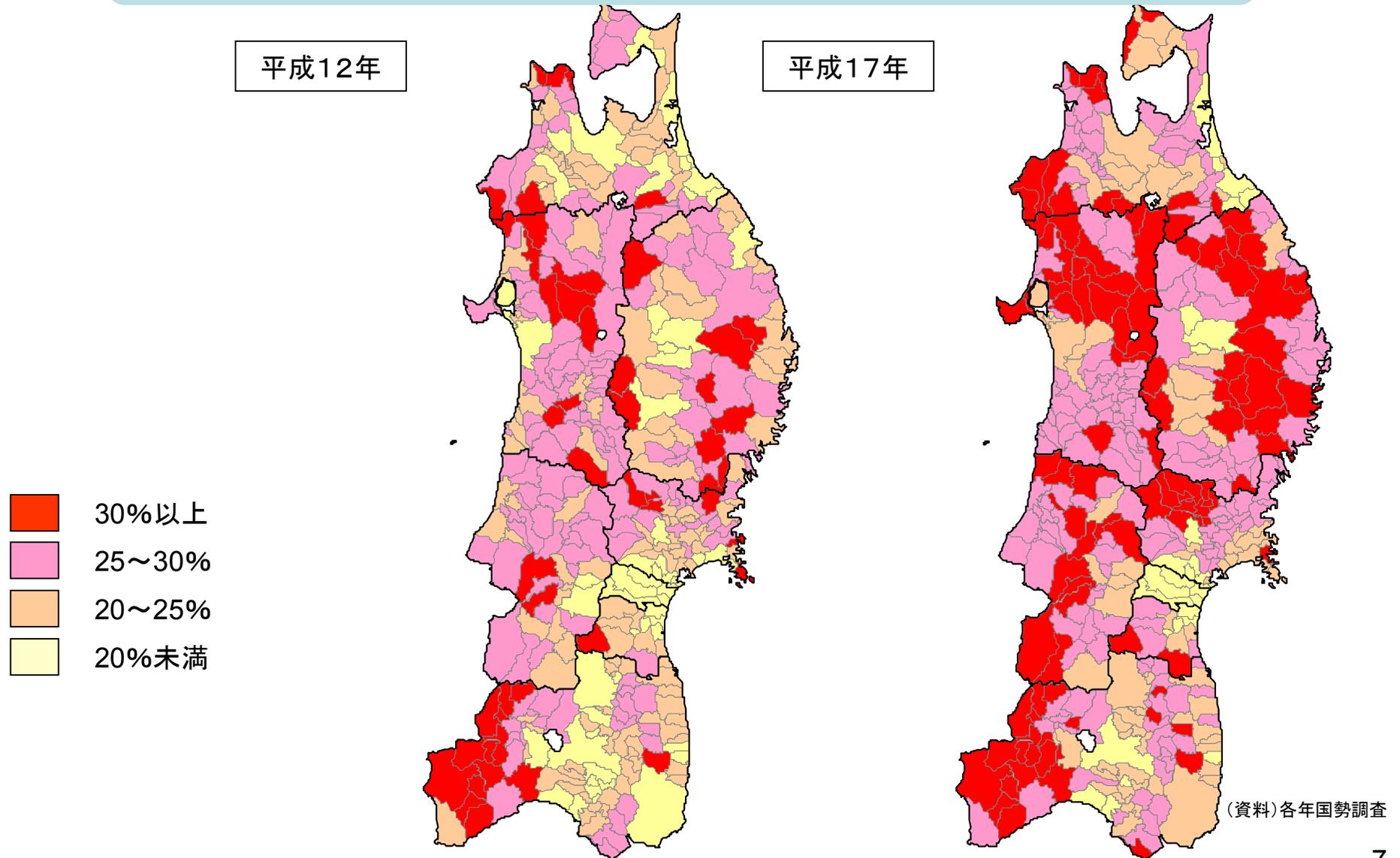
高齢化率の推移と  
将来予測  
(全国と東北各県)



(資料)実績値は各年国勢調査。  
予測値は国立社会保障・  
人口問題研究所(平成19年3月)

## ✚ 少子高齢化の進展

- 秋田県、岩手県、山形県、福島県の町村で高齢化の進展が顕著である。
- 秋田県、山形県では平成17年に全市町村が高齢化率20%以上となった。

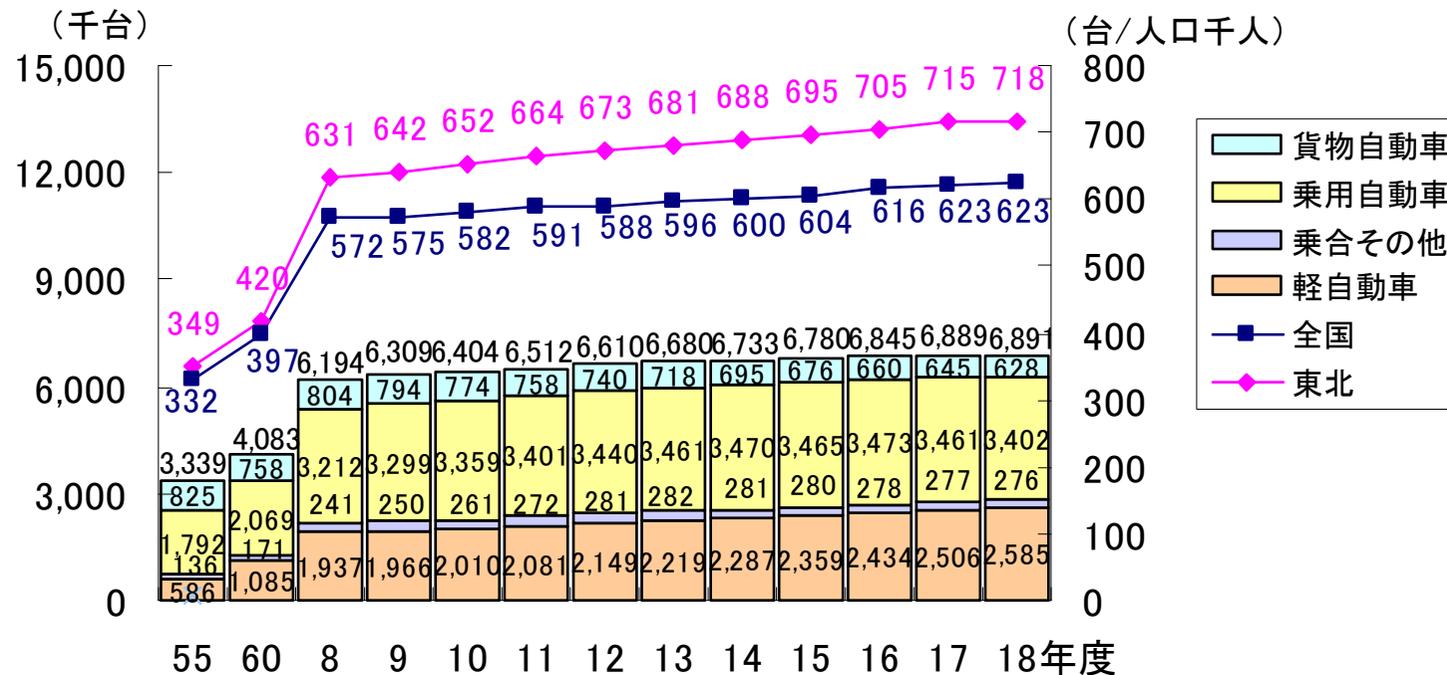


# (1) 東北地方の人口等の動向

## ⊕ 自家用車保有台数

- 自家用車の保有台数は、現在もなお、増加傾向にある。
- 一人当たり保有台数は全国よりも多い。

自家用車保有台数の推移



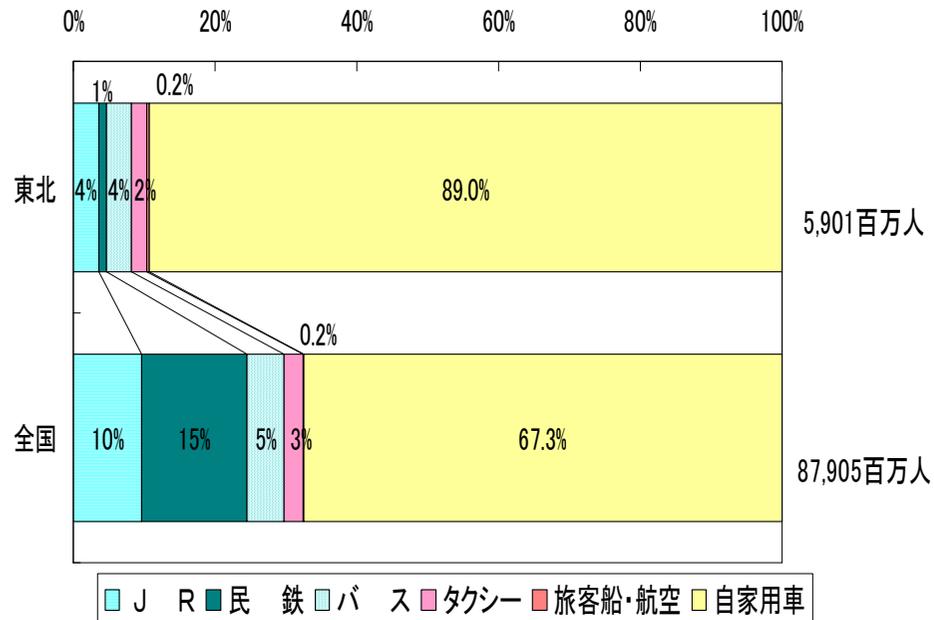
(資料)自動車保有台数は東北運輸局  
人口は、各年国勢調査、住民基本台帳推計人口

## (2) 旅客流動の動向

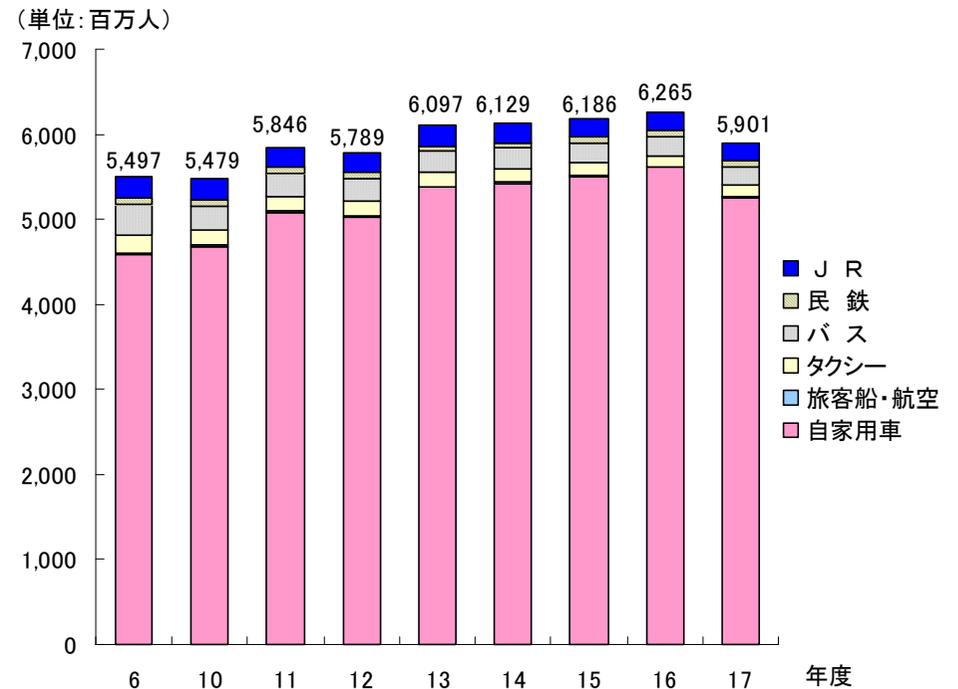
### ⊕ 旅客輸送(東北全般)

- 自動車分担率が非常に高い。
- 平成17年度には東北全体の輸送人員が減少に転じている。

機関分担率



輸送人員の推移(東北)



(資料)旅客流動調査

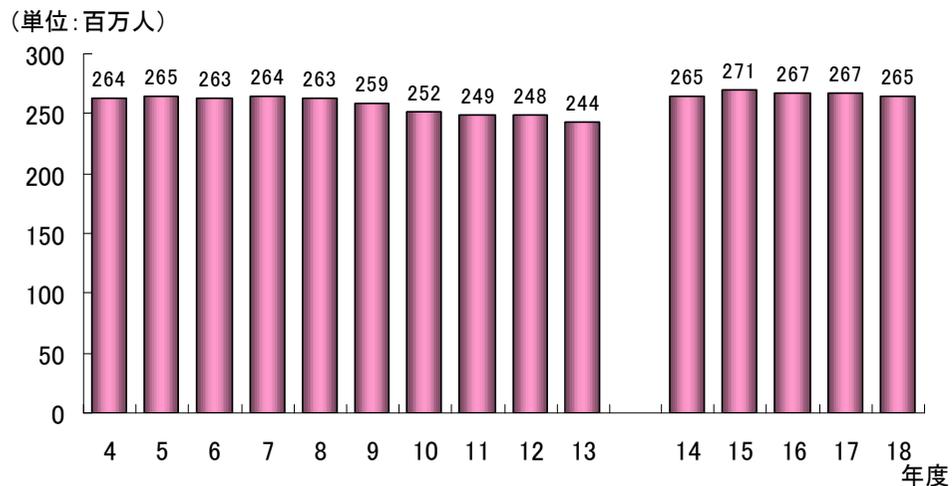
(資料)旅客流動調査

## (2) 旅客輸送の動向

### ✦ 広域流動における鉄道

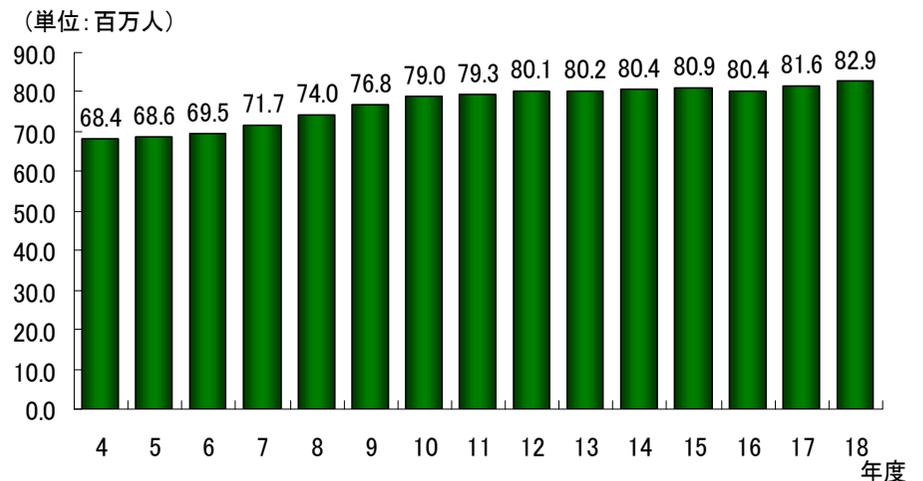
- 全体として、輸送人員は横ばいである。
- 新幹線は、平成17年度以降横ばいから増加傾向に転じている。

鉄道輸送人員推移(東北)



注)平成13年度までは管内4県の合計値、平成14年度以降は6県の合計値となっている。  
 (資料)鉄道輸送統計年報  
 (JR(新幹線を含む)、民鉄含む)

東北新幹線輸送人員の推移



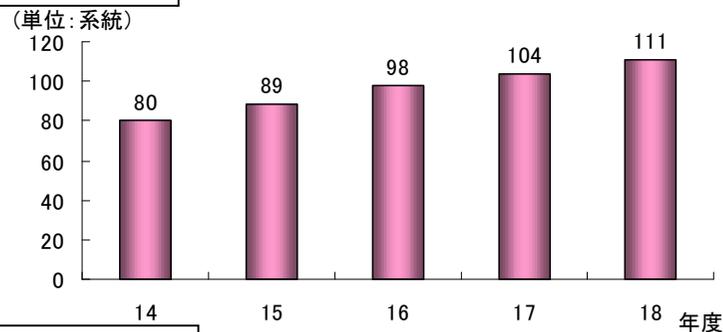
(資料)鉄道輸送統計年報

## (2) 旅客輸送の動向

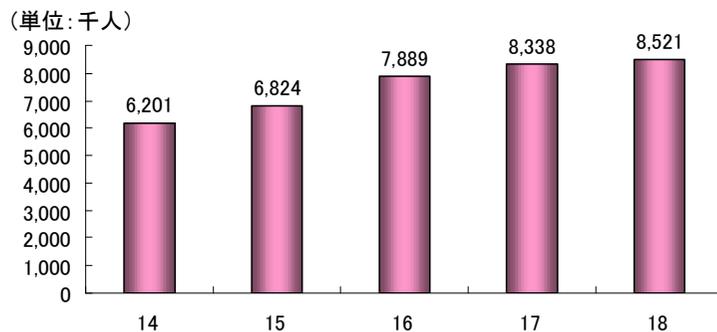
### ✦ 高速バス

- 系統数および輸送人員は増加傾向が続いている。
- 平成19年度の新規開設路線や増便路線は、首都圏との昼行便(東京～郡山、いわき)や夜行便のほか、仙台～新潟線での夜行便新設、仙台発着近距離路線にみられる。

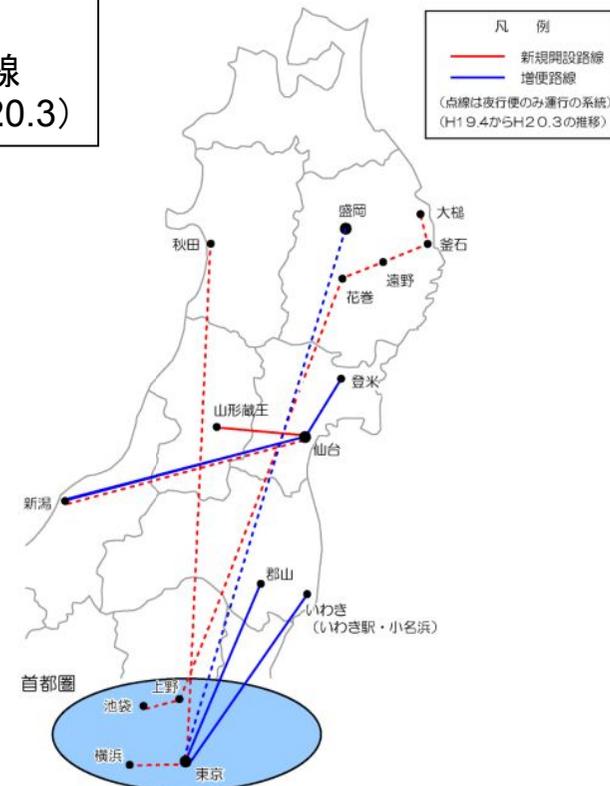
系統数の推移



輸送人員の推移



新規開設  
及び増便路線  
(H19.4→H20.3)



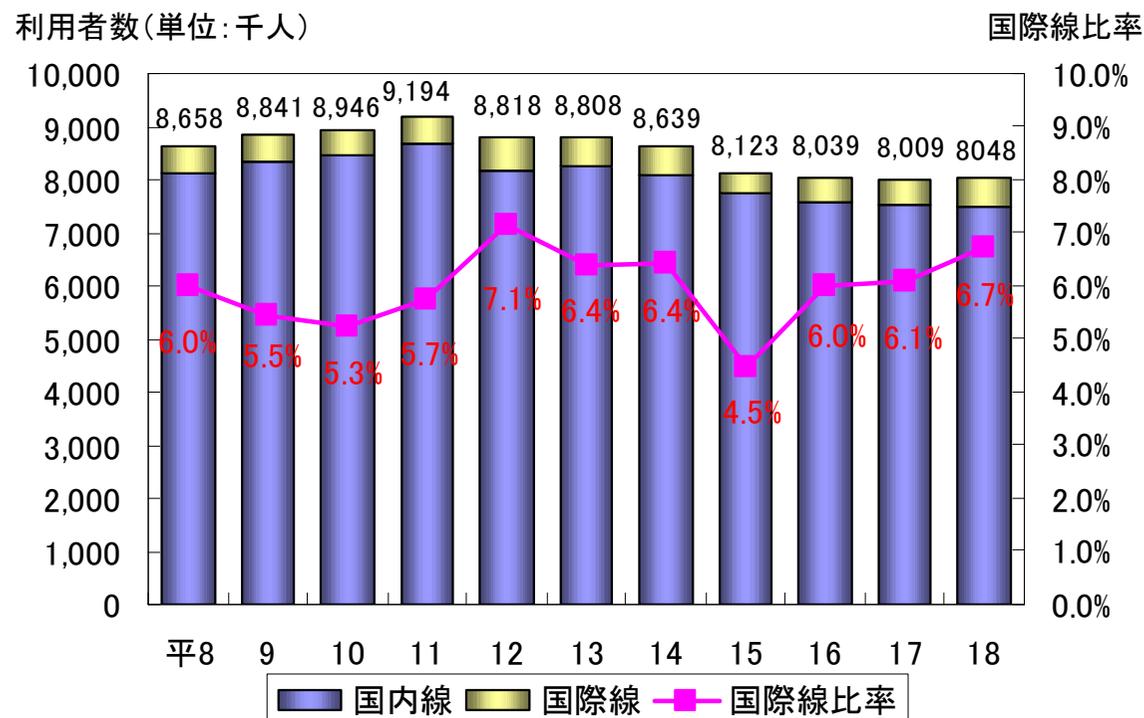
(資料) 東北運輸局

## (2) 旅客輸送の動向

### ✦ 航空

- 全体としては、輸送人員は横ばいから減少傾向にある。
- 近年、国際線利用者の占める割合が増加している。

東北地方の空港利用者数の推移



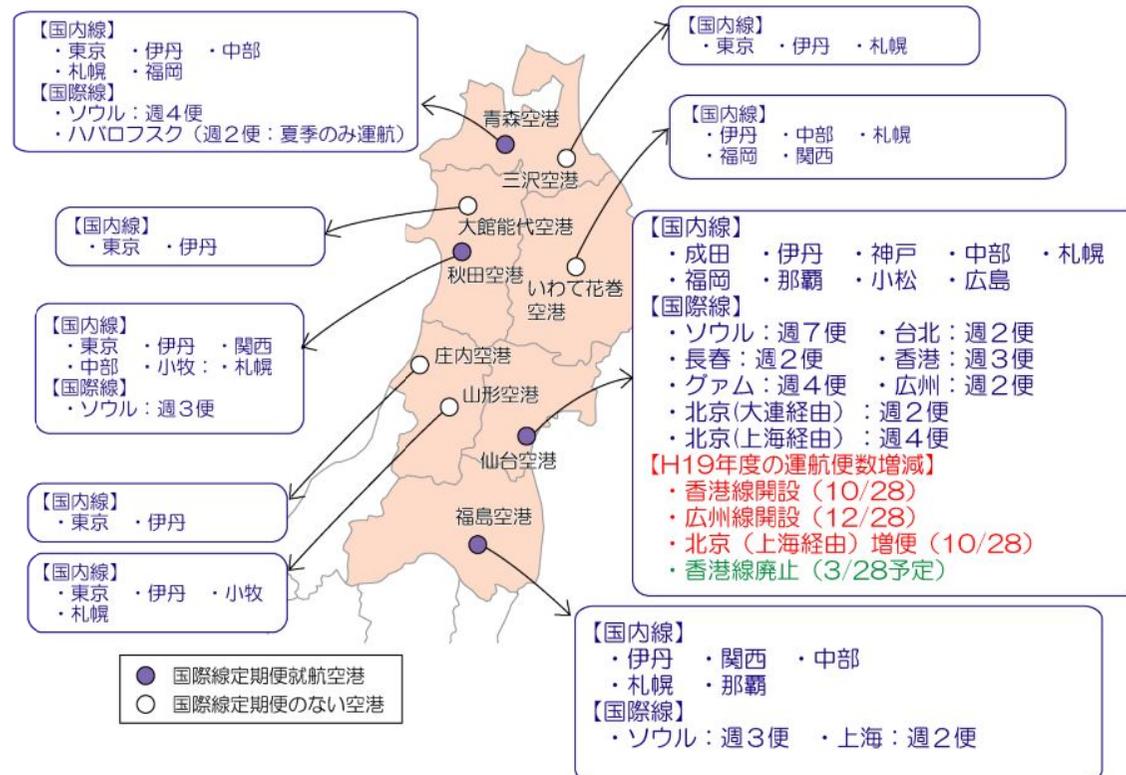
(資料)東北運輸局

## (2) 旅客輸送の動向

### ✦ 航空

- 平成19年度の航空ネットワークの変化においては、仙台空港の国際線路線で新規開設、増便等の動きがみられた。

航空ネットワークの変化(平成19年度)



注) 平成19年3月と平成20年3月のダイヤを比較。

よって、夏季増便路線(仙台～大阪、中部、札幌、広島)の増減等は反映していない。 13

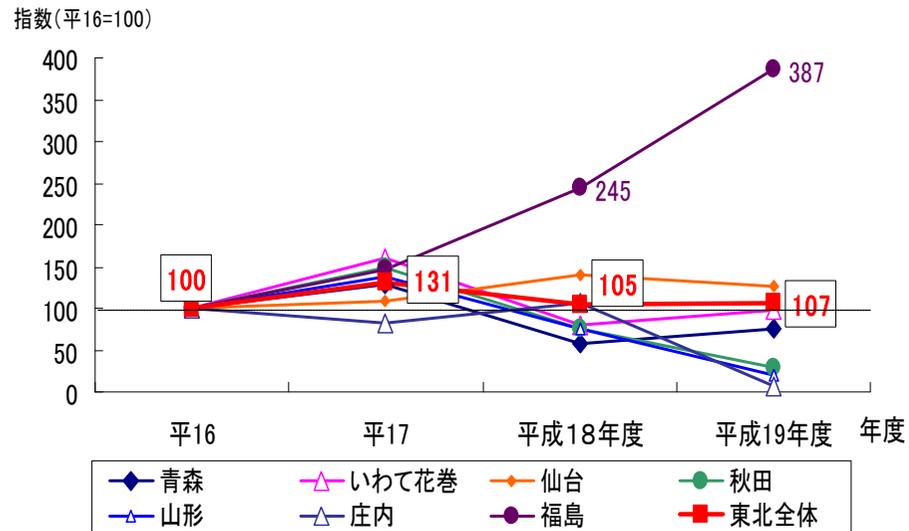
## (2) 旅客輸送の動向

### ✚ 航空

- 国際チャーター便の利用者数は、仙台空港、福島空港において、大幅に増加している。

各空港からの  
国際線チャーター便利用者数の増減(指数)

平成19年度各空港からの  
国際線チャーター便



空港	18年度の主な運航先
青森	台湾・韓国・中国
いわて花巻	台湾・中国
仙台	ハワイ・香港・台湾・イタリア・中国
秋田	台湾・中国
山形	中国
庄内	ハンガリー
福島	台湾・中国・香港・韓国

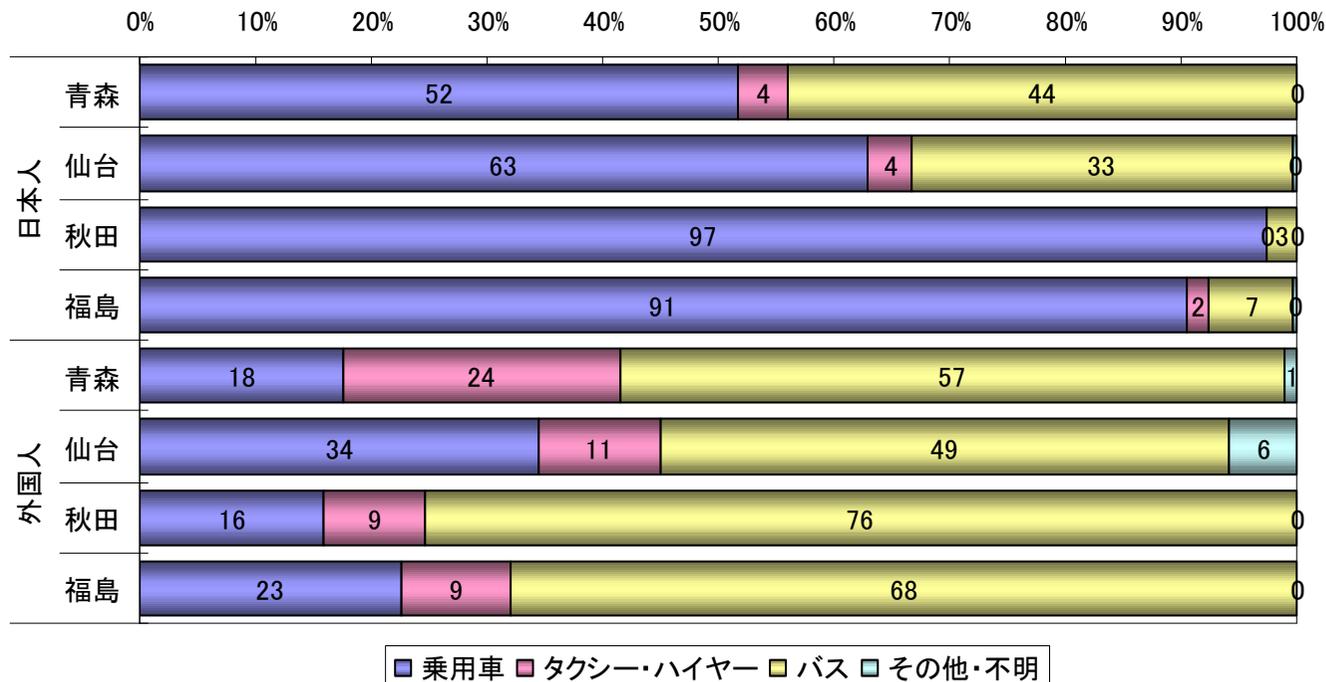
(資料)空港管理事務所・空港ビル会社

## (2) 旅客輸送の動向

### ✦ 航空アクセスの現状

- 日本人の海外旅行時における各空港までのアクセス手段は、「自動車」が多く、秋田空港、福島空港では9割を超えている。
- 一方、外国人については、「バス」の比率が高い。

出国空港別にみた  
最終アクセス交通手段の構成



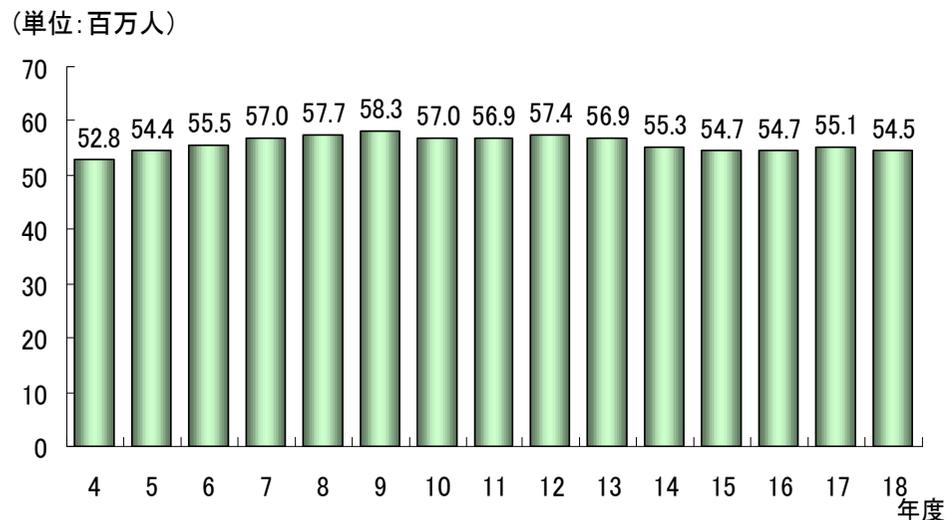
(資料)平成16年度国際航空旅客動態調査

## (2) 旅客輸送の動向

### ✚ 域内流動における鉄道

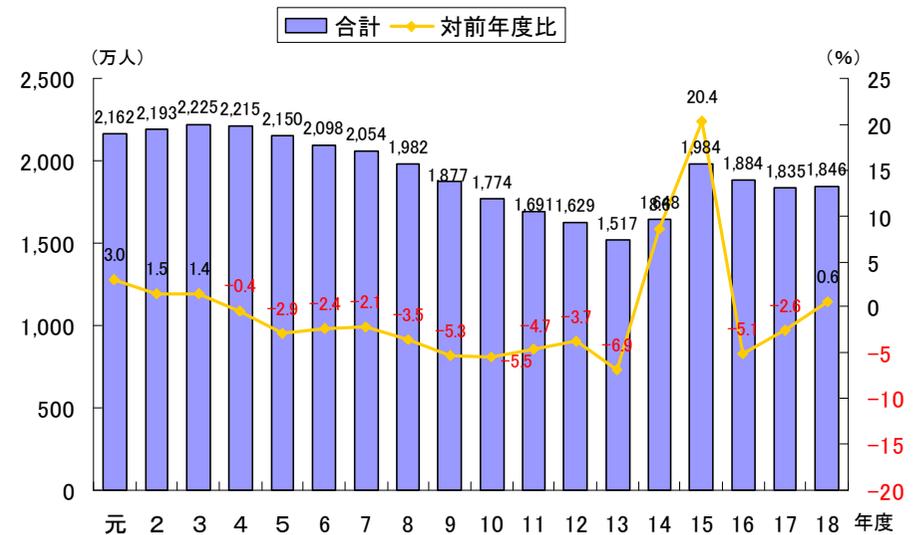
- 仙台市営地下鉄は横ばいから微減傾向である。
- その他民鉄では「IGRいわて銀河鉄道」における新駅設置や「仙台空港アクセス鉄道」の開業に伴い、平成18年度には増加に転じている。

仙台市営地下鉄輸送人員の推移



(資料)東北運輸局

民鉄輸送人員の推移



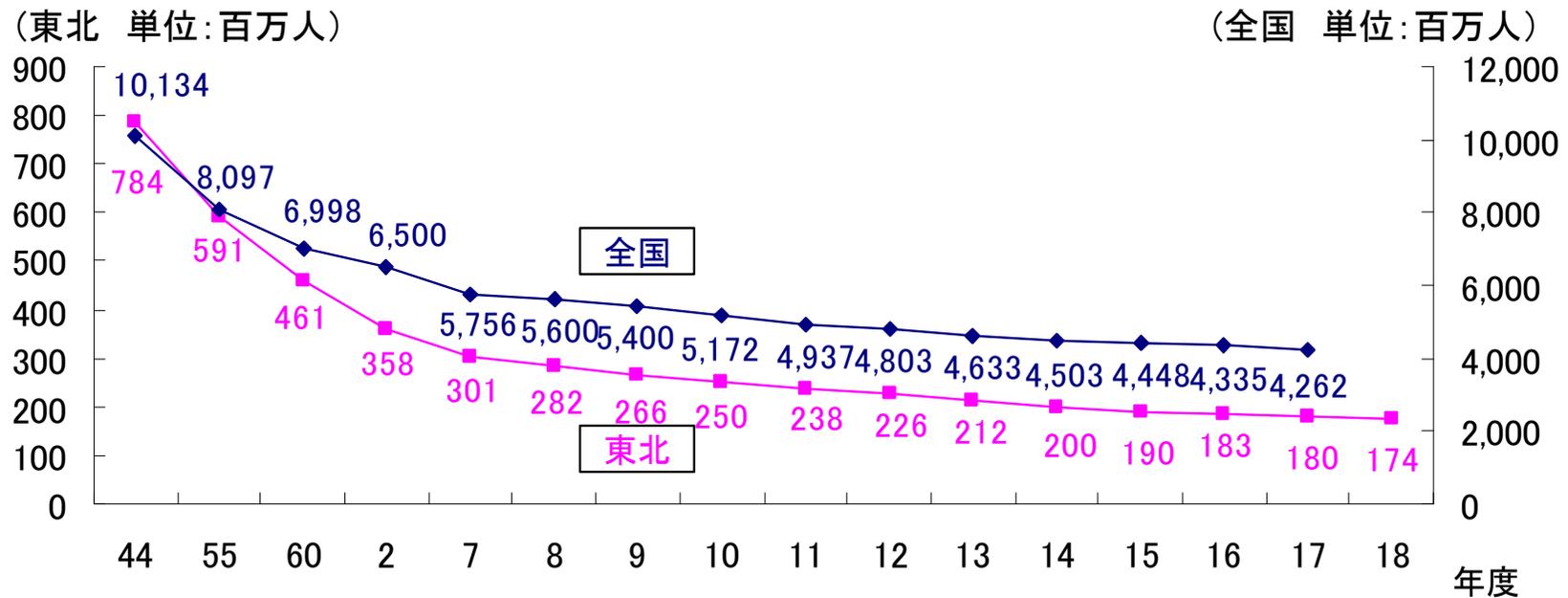
注)JR、仙台市営地下鉄を除く民鉄各線の合計値を示す。  
(資料)東北運輸局

## (2) 旅客輸送の動向

### ✦ 域内流動におけるバス

- 全国、東北全体ともに、輸送人員の減少が続いている。

乗合バス輸送人員の推移



(資料)東北運輸局

## ⊕ 域内流動におけるバス(休廃止状況)

- 乗合バスが休廃止した市町村数は、平成16年から17年にかけて急増し、18年から19年においても増加している。
- 平成14年2月から平成19年末現在で、東北地方の6割以上の市町村でバスが休廃止している。

### 乗合バスの休廃止状況

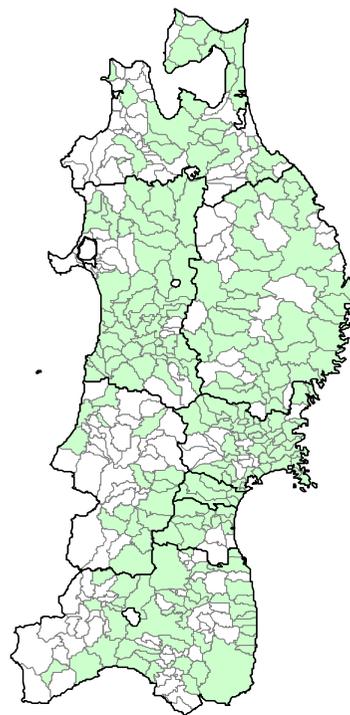
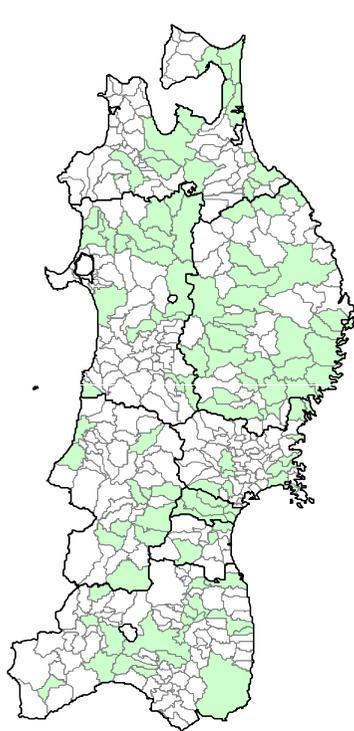
平成16年  
(100市町村)

平成17年  
(225市町村)

平成18年  
(243市町村)

平成19年  
(251市町村)

 平成14年2月から各年の末までに休廃止路線のあった市町村



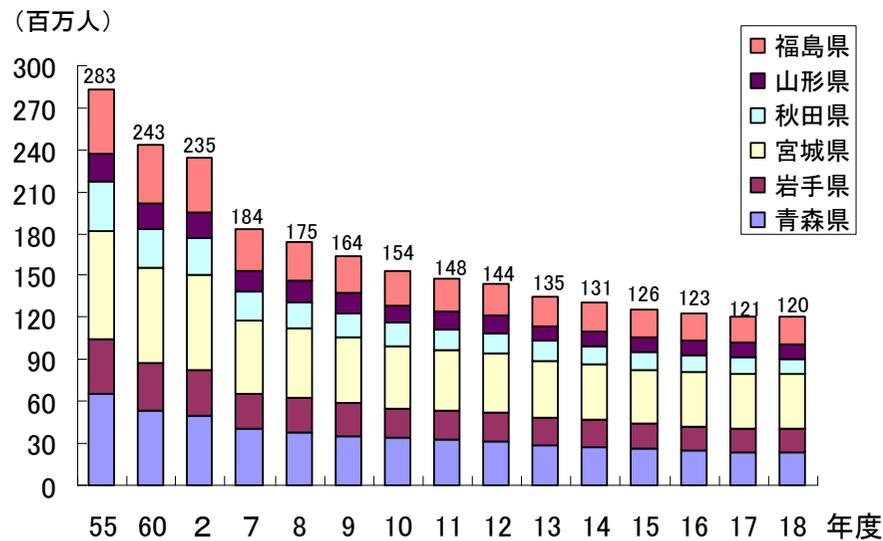
注)市町村数は、平成14年当時に基づく。  
(資料)東北運輸局

## (2) 旅客輸送の動向

### ✦ ハイヤー・タクシー

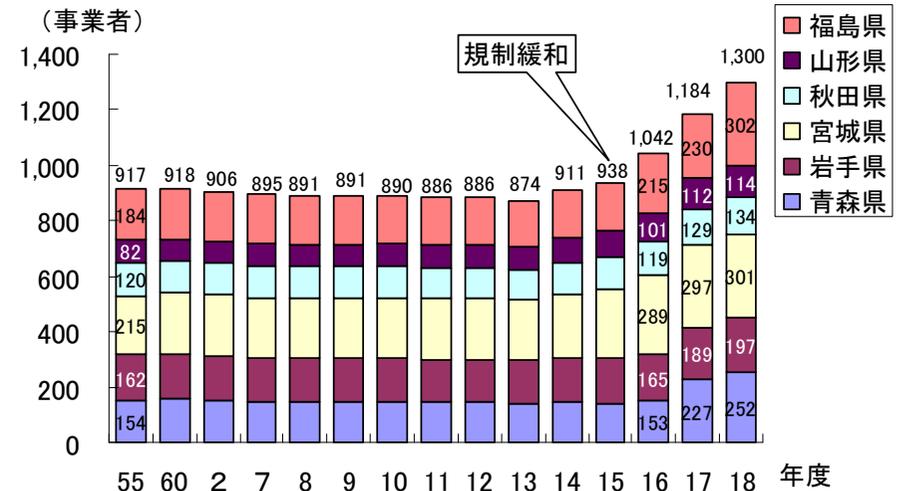
- 輸送人員の減少傾向が続いているが、一方で、ハイヤー・タクシー事業者数では、近年増加している。

ハイヤー・タクシー利用者数推移



(資料)東北運輸局

ハイヤー・タクシー事業者数推移



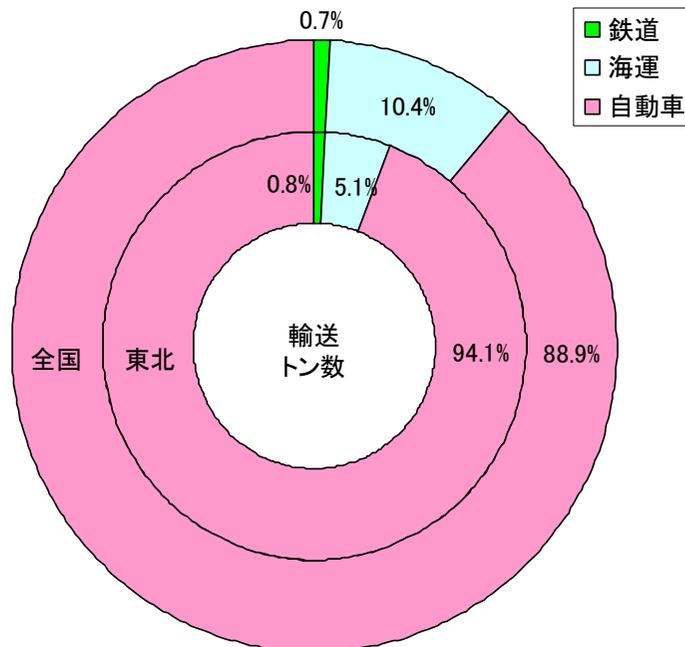
※個人タクシー事業者を除く。  
(資料)東北運輸局

## (3) 貨物輸送の動向

### ⊕ 貨物輸送(東北全般)

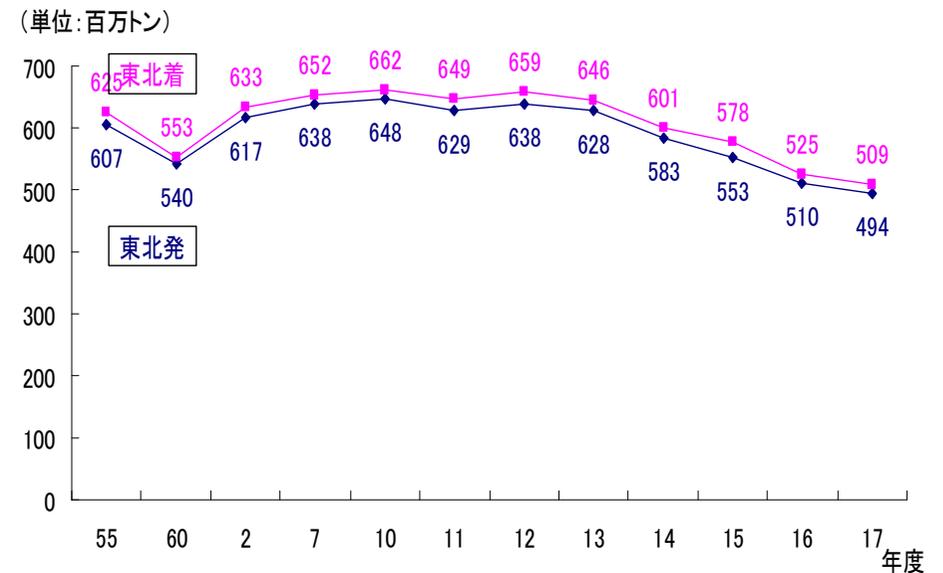
- 輸送トンベースで見ると、自動車分担率が89%と非常に高く、海運の比率が低い。
- 輸送量は減少傾向が続いている。

機関分担率  
(平成17年 輸送トンベース)



(資料)貨物地域流動調査

国内の輸送量の推移



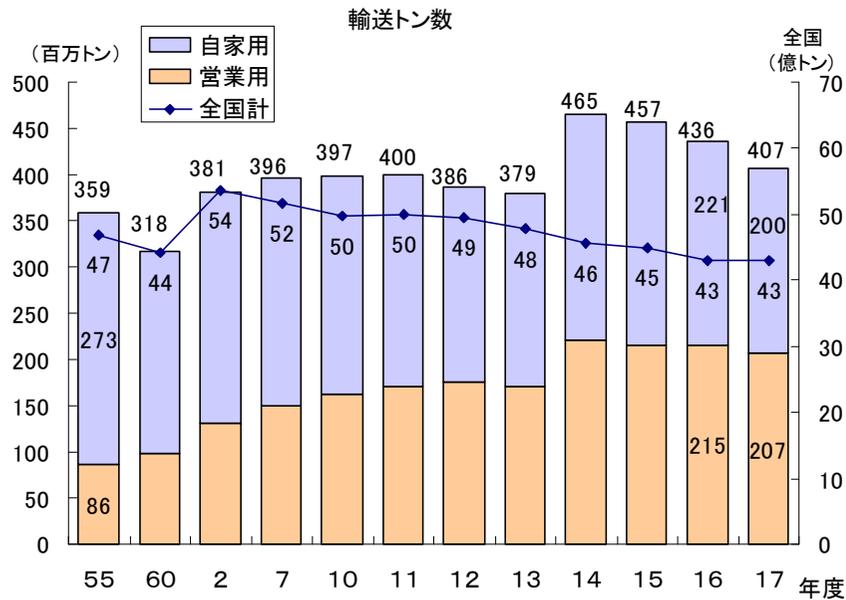
(資料)貨物地域流動調査

### (3) 貨物輸送の動向

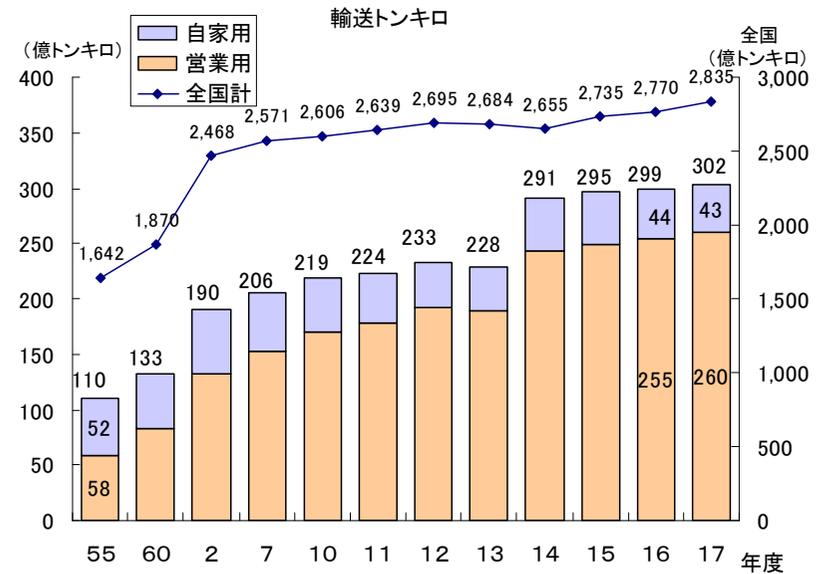
#### ⊕ 自動車貨物

- 輸送トン数は減少傾向だが、輸送トンキロベースでは増加傾向にあり、輸送距離が伸びているものと考えられる。

輸送トン数推移



輸送トンキロ推移



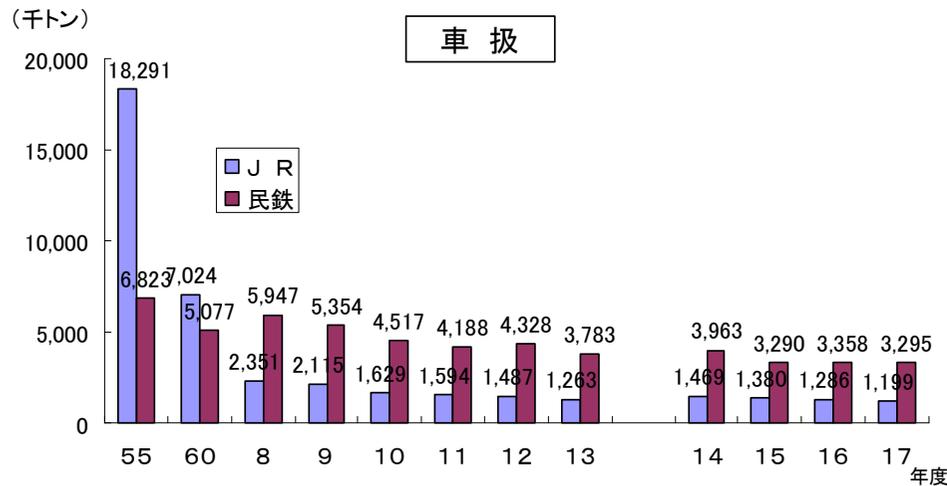
※平成13年度までは管内4県の合計値、平成14年度以降は6県の合計値となっている。  
(資料)貨物地域流動調査

## (3) 貨物輸送の動向

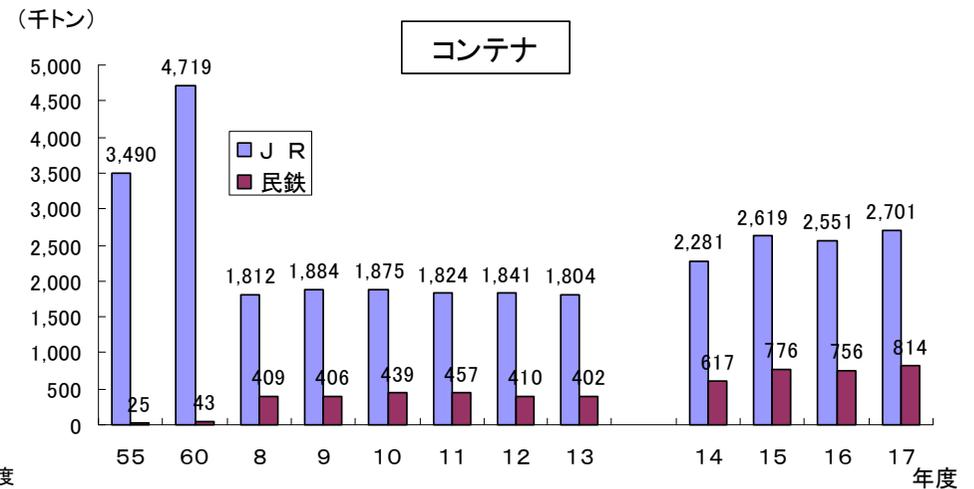
### ✚ 鉄道貨物

- 車扱、コンテナ輸送とも、横ばい傾向が続いている。

輸送トン数推移(車扱)



輸送トン数推移(コンテナ)



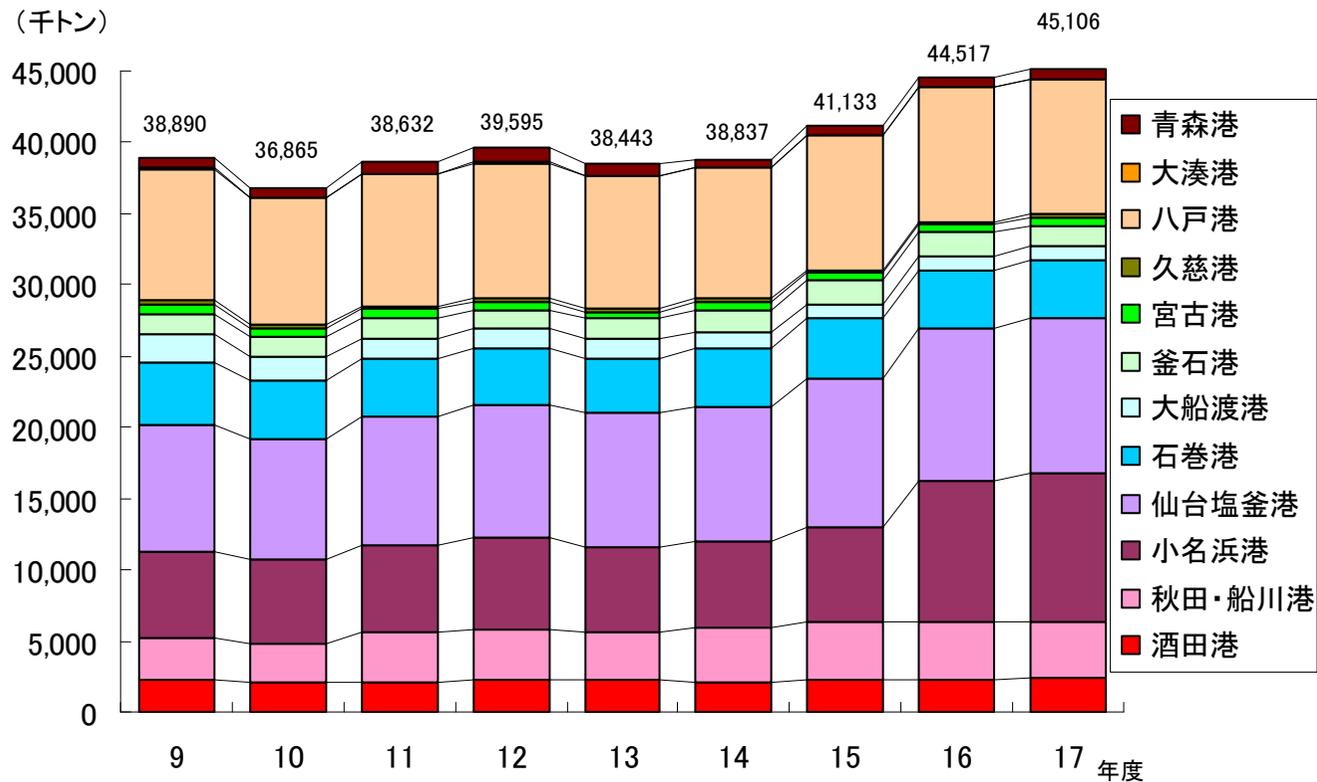
※平成13年度までは管内4県の合計値、平成14年度以降は6県の合計値となっている。  
(資料)貨物地域流動調査

## (3) 貨物輸送の動向

### ⊕ 港湾貨物

- 港湾運送取扱貨物量は横ばいから近年増加傾向に転じている。

港別港湾運送取扱貨物量の推移



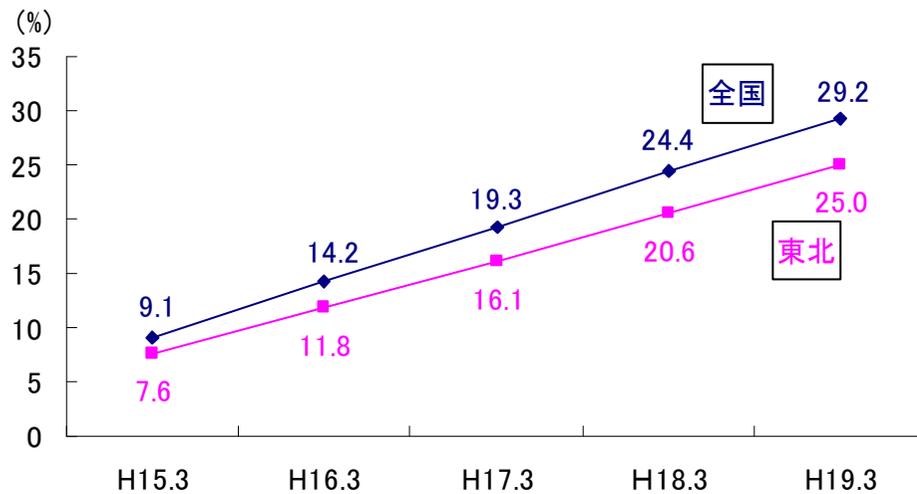
(資料)東北運輸局

## (4) 環境・バリアフリーの動向

### ⊕ 低公害車普及状況

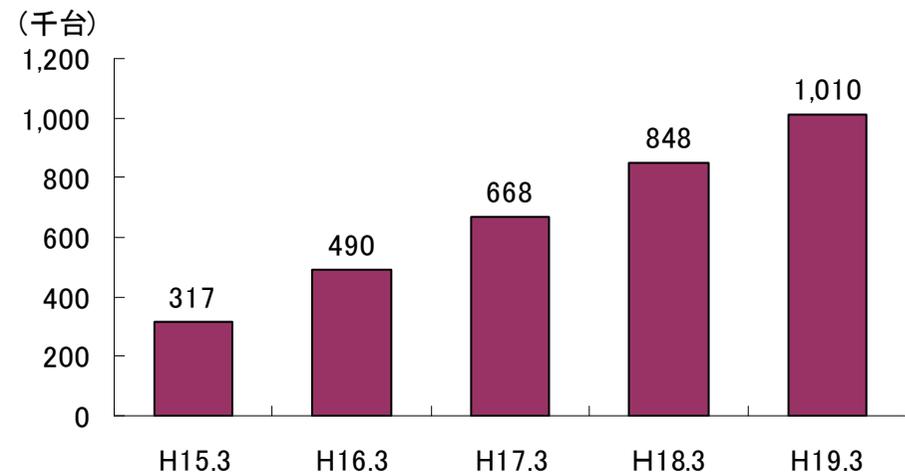
- 低公害車の普及率は増加傾向だが、全国と比較すると低水準となっている。

低公害車普及率の推移



(資料)東北運輸局

低公害車台数の推移(東北)



(資料)東北運輸局

## (4) 環境・バリアフリーの動向

### ✦ CNG車導入台数

- CNG車は増加傾向にある。
- 一方、CNG燃料スタンド数は極めて少ない状況が続いており、ここ2年間は増加していない。

CNG車導入台数

導入台数	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	東北	全国
平成15年度末	0	0	133	3	1	5	142 (0.9%)	15,252
平成16年度末	0	1	187	3	3	11	205 (1.2%)	17,381
平成17年度末	0	0	223	4	3	16	246 (1.3%)	19,254
平成18年度末	0	0	261	4	3	17	285 (1.3%)	21,300

CNG燃料スタンドの設置状況

(資料)東北運輸局

		北海道	東北	関東	東海・北陸	近畿	中国・四国	九州	合計
平成17年12月末	CNG燃料スタンド数(箇所)	8	5	121	57	69	14	18	292
	昇圧供給装置(小型充填機)(台)	5	12	272	155	180	29	33	686
平成18年12月末	CNG燃料スタンド数(箇所)	8	5	128	60	75	16	19	311
	昇圧供給装置(小型充填機)(台)	5	12	264	161	196	31	34	703
平成19年12月末	CNG燃料スタンド数(箇所)	8	5	132	66	72	19	22	324
	昇圧供給装置(小型充填機)(台)	5	12	255	145	196	33	34	680

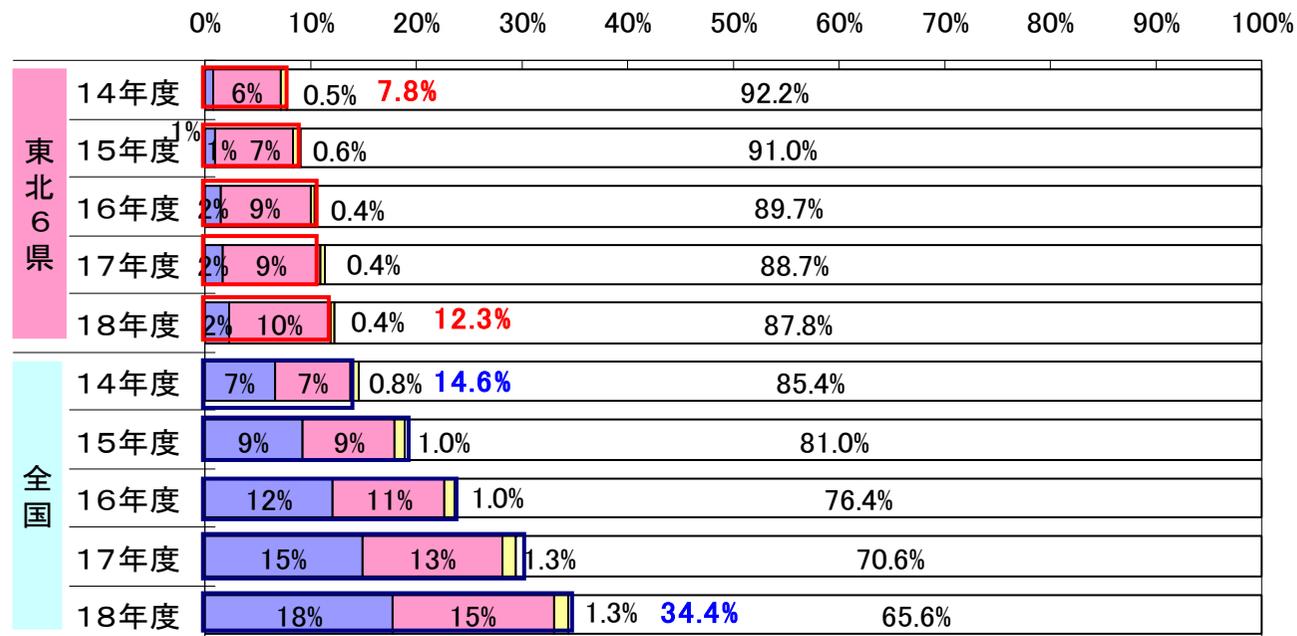
(資料)社団法人日本ガス協会

## (4) 環境・バリアフリーの動向

### ✦ 乗合バスのバリアフリー

- 乗合バスのバリアフリー化は近年進展しているものの、全国と比べると低水準であり、5年前の全国導入率(14.6%)に達していない。

乗合バスのバリアフリー化  
の現状(全国・東北)



■ ノンステップバス ■ ワンステップバス □ リフト付バス □ その他

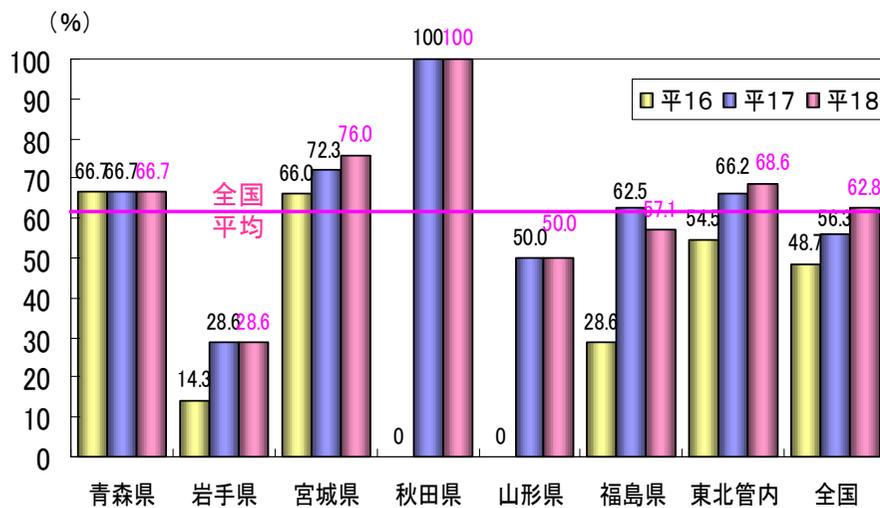
(資料)東北運輸局

## (4) 環境・バリアフリーの動向

### ✚ 鉄道駅のバリアフリー

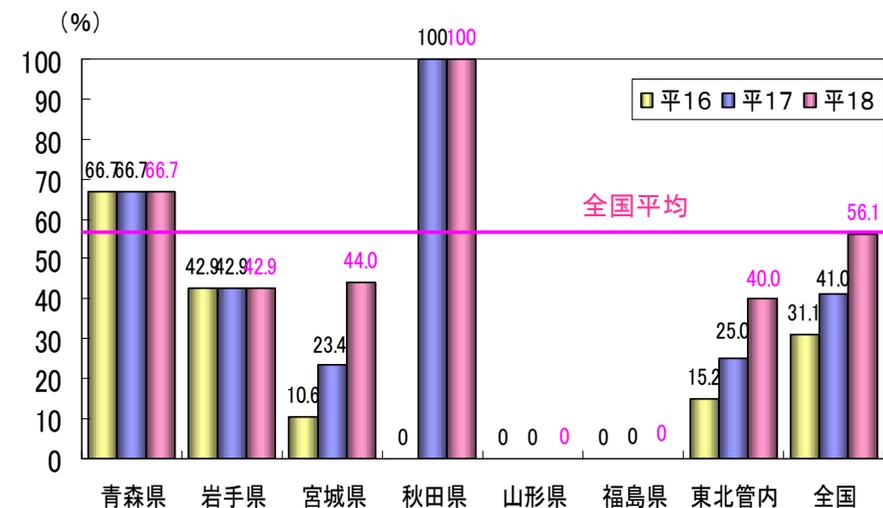
- 鉄道駅では、段差解消率が全国よりも上回っている。
- 身体障害者用トイレ整備率は全国より水準が低いものの、着実な整備が進められている。

県別にみた1日利用者数が5千人以上の駅における「段差解消率」



(資料)東北運輸局

県別にみた1日利用者数が5千人以上の駅における「身体障害者用トイレ整備率」



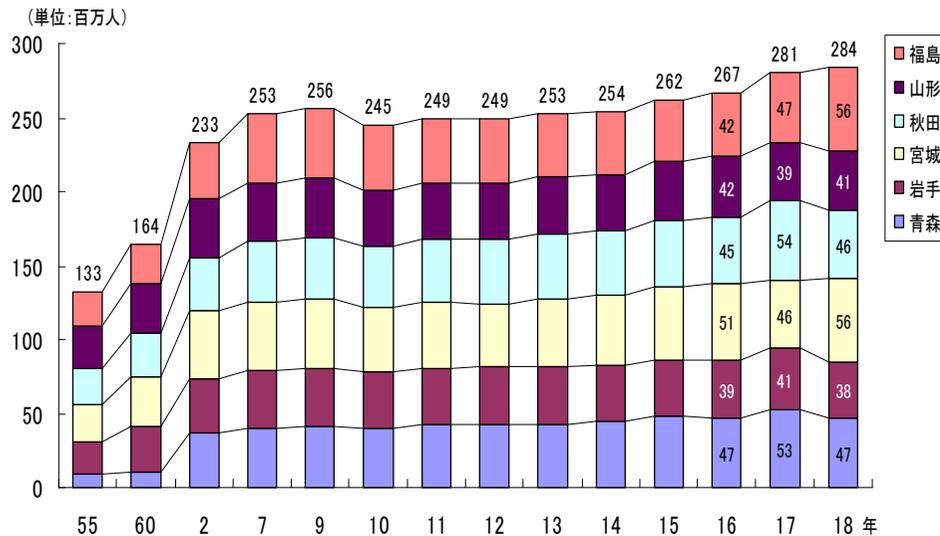
(資料)東北運輸局

## (5) 観光の動向

### 観光客数

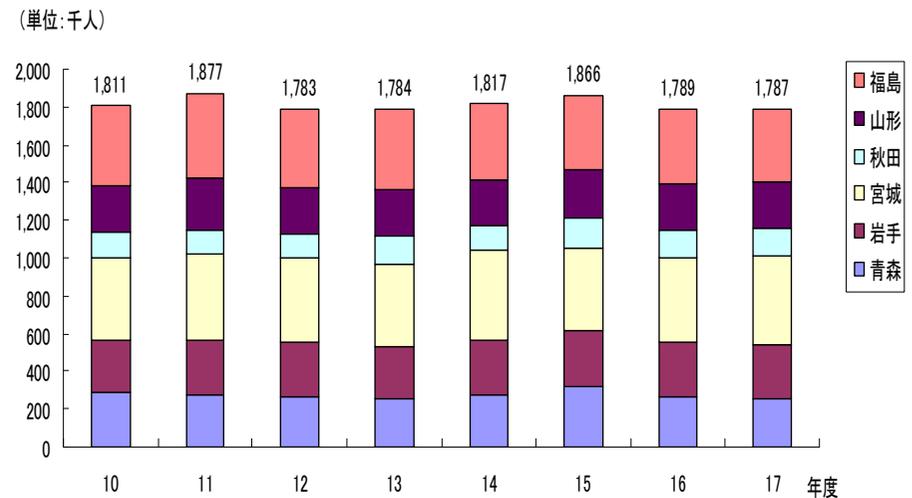
- 観光客数は近年増加傾向にあり、平成17年以降は、東北地方全体で2億8千万人を超えている。
- 一方、宿泊人数は近年横ばい傾向である。

県別観光客数の推移



(資料)東北運輸局

宿泊人数の推移



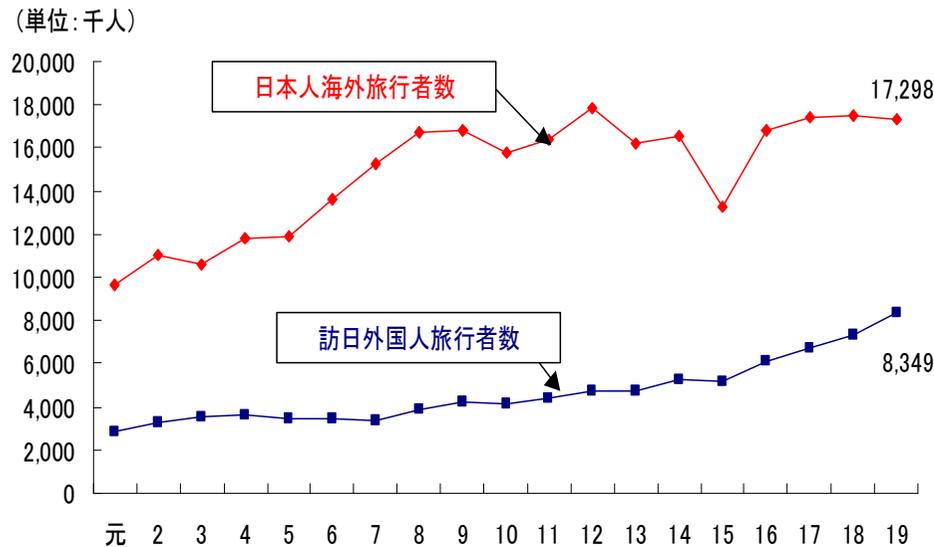
(資料)JTB宿泊白書2005

## (5) 観光の動向

### ✦ 全国の訪日外国人旅行者数

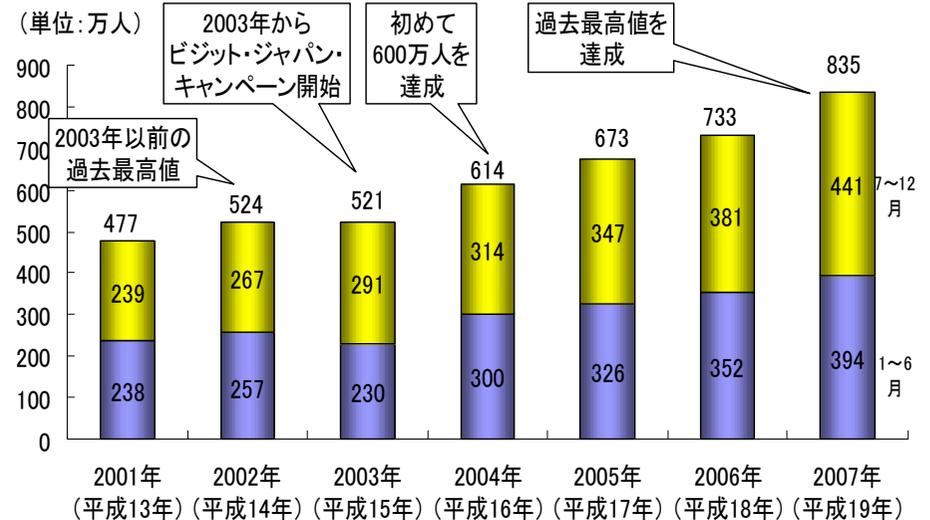
- 全国の訪日外国人旅行者数は年々増加し、平成19年(2007)には835万人と過去最高に達することが予想されている。

日本人海外旅行者数・  
訪日外国人旅行者数の推移



※19年のデータは、1～11月が暫定値、12月がJNTO推計値  
(資料)国際観光推進機構(JNTO)

訪日外国人旅行者数の推移(半期別)



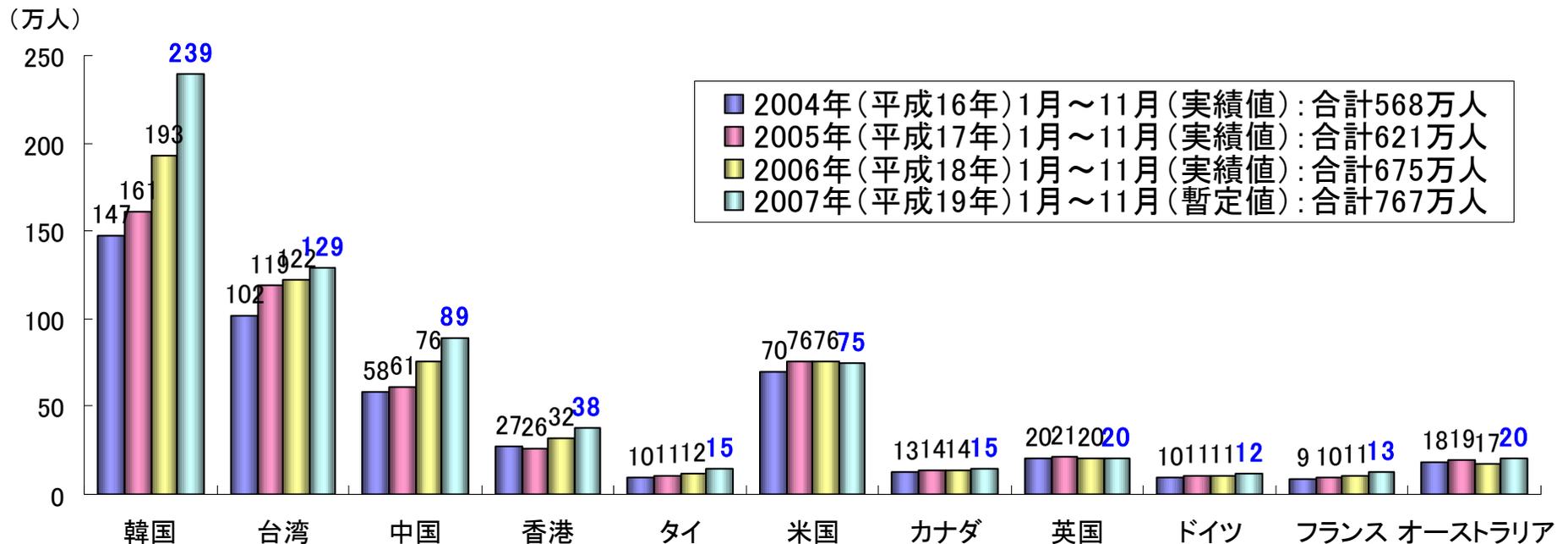
※19年のデータは、1～11月が暫定値、12月がJNTO推計値  
(資料)国際観光推進機構(JNTO)

## (5) 観光の動向

### ✦ 全国の国籍別訪日外客数

- 訪日外国人旅行者の国籍については、韓国、台湾をはじめとしたアジア諸国の比率が高い。
- 特に、韓国や中国からの訪日外客数が増加している。

全国の国籍別訪日外客数



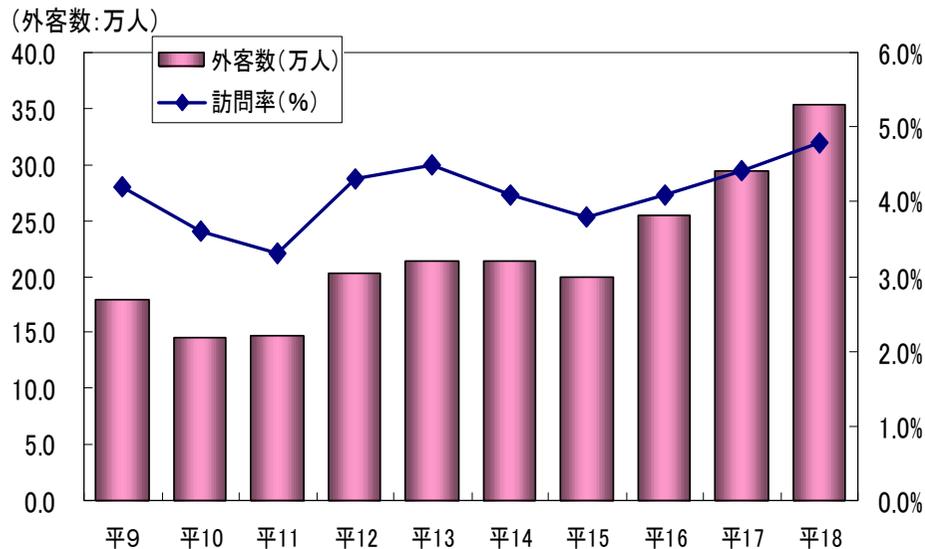
(資料)国際観光推進機構(JNTO)

## (5) 観光の動向

### ✚ 訪日外国人旅行者の東北地方への訪問状況

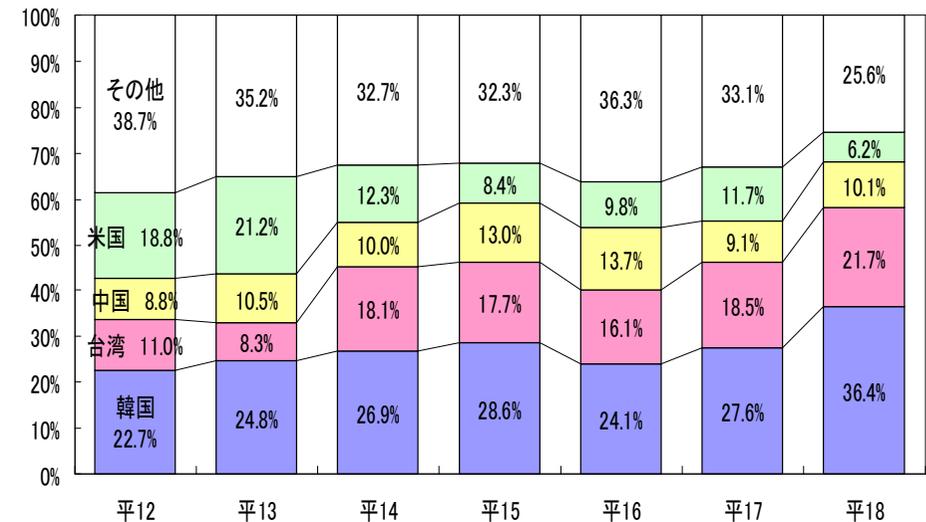
- 平成18年現在、日本全国では733万人の訪日外客数であったが、東北地方全体では35.3万人で訪問率が4.8%に達している。
- 東北地方を来訪する外国人の国籍は、韓国や台湾が多い傾向である。

東北地方への外国人旅行者の推移



(資料)東北運輸局

東北地方への外国人旅行者の国籍



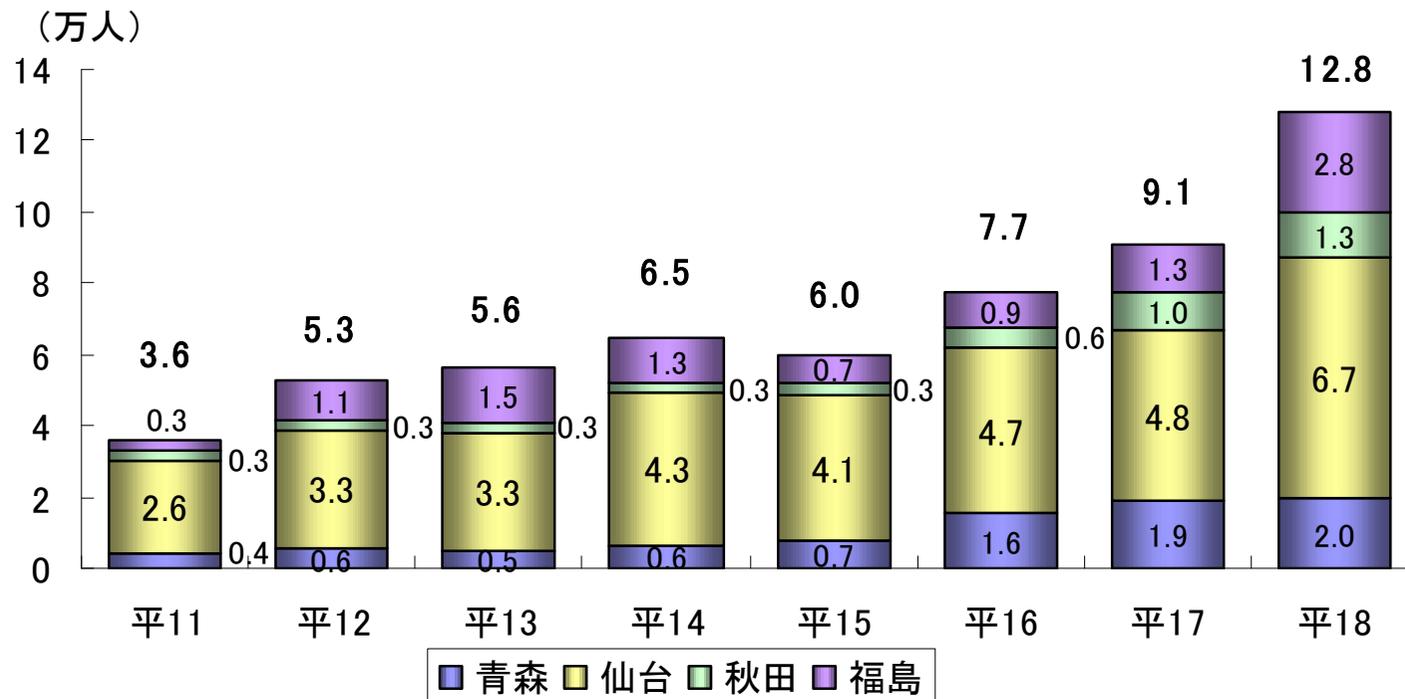
(資料)東北運輸局

## (5) 観光の動向

### ✦ 訪日外国人旅行者の東北地方への訪問状況

- 東北地方の主要空港から出国する外国人旅行者は、平成18年で12.8万人に達し、増加傾向が続いている。

東北地方の主要空港から出国する外国人旅行者



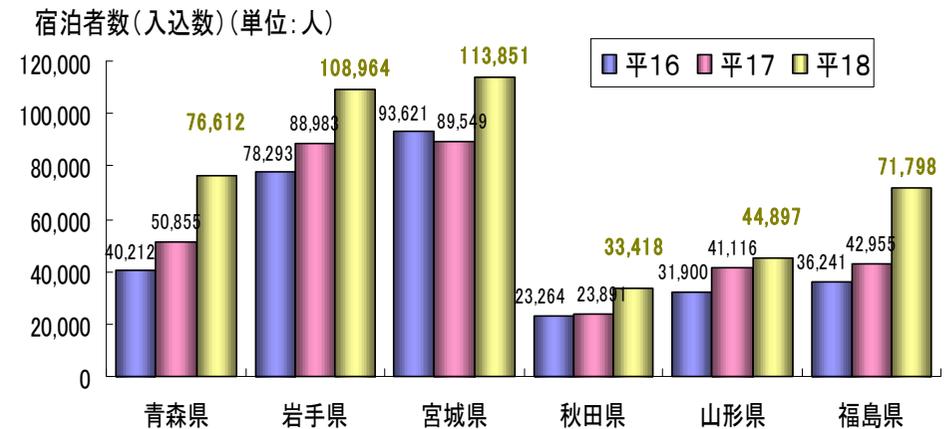
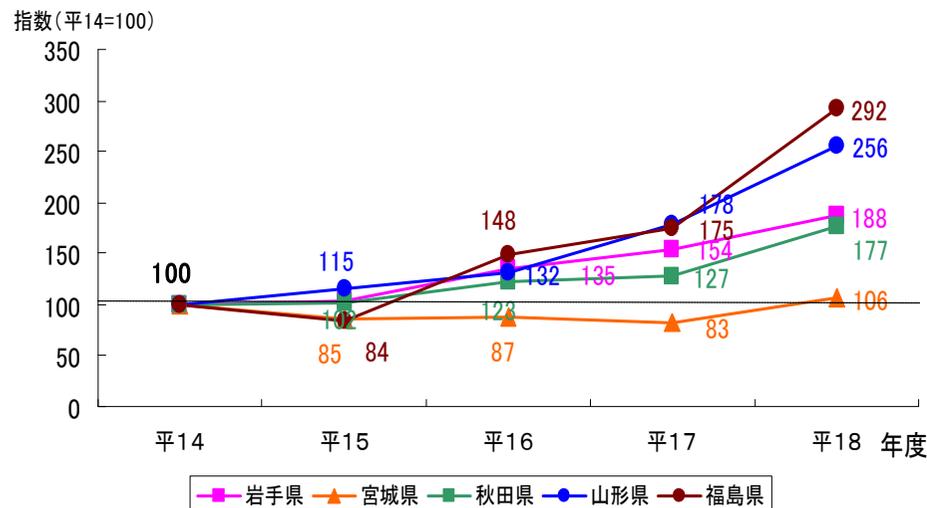
注) 主要空港とは、国際定期便が運行する、青森空港、仙台空港、秋田空港、福島空港を示す。  
 (資料) 出入国管理統計

## (5) 観光の動向

### 各県の外国人観光客宿泊者数

- 各県の外国人観光客の宿泊者数は、各県とも増加傾向にある。
- 特に、山形県、福島県における増加率が高い。

各県の外国人観光客宿泊者数



注) 青森県は平成16年度から統計を取ったため除く。また、岩手県は入込数の伸びを示す。  
(資料) 各県観光統計

注) 岩手県は入込数の伸びを示す。  
(資料) 各県観光統計

## 第2部

# 答申施策の実施状況

～東北地方交通審議会答申（平成17年3月）のフォローアップ～



第一編

東北地方における  
望ましい交通のあり方



# 構 成

## ✦ 取り組むべき施策

- ① 地域間・都市間交流を促進する「広域的な公共交通の整備と活用」  
(答申「第2章」)
- ② 快適で活力を生み出す「都市交通の整備・改善」  
(答申「第3章」)
- ③ 安心して暮らし続けられる地域づくりのための「地域の足」の確保  
(答申「第4章」)
- ④ 「環境に優しい」交通体系の整備  
(答申「第5章」)

①

# 地域間・都市間交流を促進する 広域的な公共交通の整備と活用

(答申「第2章」)

## 東北地方の交通の課題

本格的な人口減少を迎えており、地域の経済活動が縮小し、活力が失われることが懸念される。このような中、**交流人口の拡大**により地域の活力を生み出していくことが重要である。そのため、**広域的な公共交通の整備及び最終目的地までの足を確保**する。



## (1) 他の地方ブロックや海外との交流拡大のための 基盤整備の着実な推進等

### ✦ 答申の要点

- 東北地方と他の地方ブロックとを結ぶ幹線的な交通や二次交通の整備を推進することにより、交流人口の拡大を図る。

### ✦ 平成19年度の取り組み

- **東北新幹線新青森延伸(青森県)**  
平成20年1月末現在において、事業費ベースでは71.8%、用地取得率では97.0%と開業に向け、順調に推移している。
- **仙台まるごとパスのエリア拡大(宮城県)**  
対象エリアの拡大で仙台空港アクセス鉄道も利用可能となり、売上枚数が2倍以上に増加。
- **庄内観光物産館バス停及び駐車場整備事業(山形県)**  
国のバス利用促進等総合対策事業(H19)を活用し、鶴岡市とバス事業者がバス停等を整備する予定。  
(概算総工事費8千万円、駐車場整備面積:2,131.65㎡)

事例紹介

# 東北新幹線新青森延伸

## ■ 事業の概要

東北新幹線「八戸・新青森間」(約82km)は、平成22年度末の完成に向けて着実に整備が進められている。  
(事業費ベースの進捗状況:進捗率71.8%、用地取得状況:97.0% ※平成20年1月現在)

## ■ 八戸～新青森間ルート平面図



出典: 鉄道・運輸機構パンフレット

## ■ 新幹線延伸に向けた検討の動き

「青森県新幹線開業対策推進本部」(平成18年12月設置)や同本部に置かれた「観光推進専門委員会」「産業振興専門委員会」「交通アクセス専門委員会」「地域活性化専門委員会」等において、**新幹線の開業効果活用による交流人口の拡大、地域振興のための方策を検討中。**

## (2) 東北地方内の都市間移動円滑化に向けた検討

### ✦ 答申の要点

- 鉄道在来線の高速化や、東北地方内の都市間を結ぶ高速バス網の充実により、東北地方内の都市間の交流人口拡大を図る。

### ✦ 平成19年度の取り組み

- **庄内観光物産館バス停及び駐車場整備事業(山形県)(再掲)**  
国のバス利用促進等総合対策事業(H19)を活用し、鶴岡市とバス事業者がバス停等を整備。  
(概算総工事費8千万円、駐車場整備面積:2,131.65㎡)

事例紹介

# 庄内観光物産館バス停及び駐車場整備事業

## ■事業の概要

○高速バスと路線バス、自家用車、観光乗合タクシー等の乗り継ぎ施設として、バス待合所の整備や現行駐車場の拡大整備を行い、パーク&バスライド施設としての庄内観光物産館バス停の機能強化を図った。

○平成17年度には、公共交通活性化総合プログラムの一環として「庄内地域高速バス活性化プロジェクト事業」が実施され、国、県、バス事業者、観光関連等の関係者が集まり、高速バスによる観光振興やバス利用者の増加に向けての検討が行われた。

○平成18年度からは高速バスロケーションシステムが導入され、平成19年度には駐車場等の整備が完了した。

### 《整備箇所》



## パーク&バスライドの推進による 高速バス利便性向上

### 《パーク&バスライド》

- ① 駐車場に自家用車を止めて      ② バスで目的地まで向かう



### 《実施事業》

- 駐車場の設備整備  
(増設、舗装、案内標識等の整備)
- 庄内観光物産館バス停・待合所設備整備  
(上屋、窓口、ベンチ、電飾ポール、トイレ等)
- バス運行通路の整備

## (3) 広域的な公共交通の拠点と目的地を結ぶ公共交通の需要に応じた供給形態の見直し

### ✦ 答申の要点

- 広域的な公共交通の拠点と目的地とを結ぶ公共交通について、来訪者のニーズに適合したルート、ダイヤへの再検討や、より少ない需要に適合した乗合タクシーへの転換などの供給形態の見直しを進めるべきである。

### ✦ 平成19年度の取り組み

- **2次交通運行モデル構築調査(青森県)**  
青森空港～白神山地(暗門方面)への乗合タクシーの許可を受けて運行したが、あまり利用されなかった。2次交通運行モデル構築調査は、19年度で終了。
- **いわき～アクアマリンふくしま、いわき・ら・ら・ミュウ間の乗合タクシー**  
JR常磐線の泉駅、湯本駅、いわき湯本温泉地区旅館とアクアマリンふくしま、いわき・ら・ら・ミュウ間を結ぶ乗合タクシーの実証実験を実施。併せて、乗合タクシー利用者に対して観光施設の割引券や買い物割引券を配布し、観光二次交通としての乗合タクシー運行の効果を検証した。
- **高速バスの青森港乗り入れ、高速バス・高速フェリー共通乗車券**  
盛岡青森間の高速バスの一部の便が青森港に乗り入れることにより、盛岡函館間を高速バスと高速フェリーが待ち時間なしで接続。また、片道が2,460円お得になる共通乗車券が販売される。

# いわき～アクアマリンふくしま、 いわき・ら・ら・ミュウ間の乗合タクシー

## 事業の概要

湯本駅・泉駅から小名浜港までの区間において運行。常磐線の特急列車に接続運行し、各駅から小名浜の観光名所「いわき・ら・ら・ミュウ」「アクアマリンふくしま」まで直行する。乗客には、小名浜港各施設やいわき湯本温泉で使える割引サービス券をプレゼントした。

### 【期間】

平成19年2月24日(土)～3月11日(日)の毎日運行

### 【路線】

＜湯本・小名浜線＞

- ・JR湯本駅→＜直行＞→アクアマリンふくしま→いわき・ら・ら・ミュウ
  - ・いわき・ら・ら・ミュウ→アクアマリンふくしま→＜直行＞→JR湯本駅
- ＜泉・小名浜線＞

- ・JR泉駅→＜直行＞→アクアマリンふくしま→いわき・ら・ら・ミュウ
- ・いわき・ら・ら・ミュウ→アクアマリンふくしま→＜直行＞→JR泉駅

### 【運賃】

泉 駅⇄小名浜港 450円  
湯本 駅⇄小名浜港 800円  
※6歳未満は無料。

### Route Map

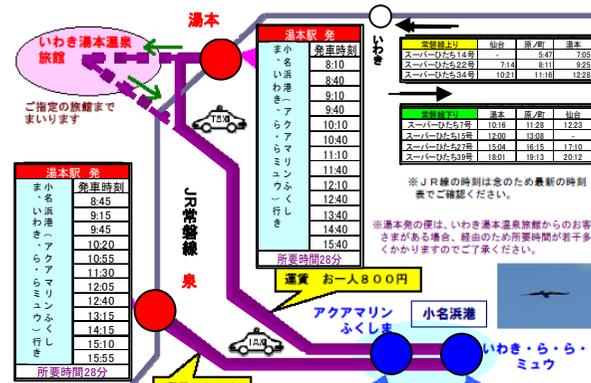


### 観光乗合タクシー【実験運行】



### 運行時刻表

運行日  
2007年  
2月24日(土)～3月11日(日)  
の毎日



発車時刻	10:03	11:08	12:08	13:03	13:58	14:58	15:53	16:03	16:33	17:03	17:43	
所要時間	10分											

着車時刻	10:23	11:28	12:28	13:23	14:18	15:13	15:23	15:53	16:23	16:53	17:33
------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

発車時刻	9:33	10:33	11:13	12:13	13:13	14:13	14:43	15:13	15:43	16:13	16:43	17:13	
所要時間	10分												

着車時刻	9:48	10:48	11:28	12:28	13:28	14:28	14:58	15:28	15:58	16:28	16:58	17:28
------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

発車時刻	9:30	10:30	11:10	12:10	13:10	14:10	14:40	15:10	15:40	16:10	16:40	17:10	
所要時間	10分												

着車時刻	9:45	10:45	11:25	12:25	13:25	14:25	14:55	15:25	15:55	16:25	16:55	17:25
------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

## (4) 交流人口拡大に向けた多様な関係者が一体となった取り組みの推進

### ✚ 答申の要点

- 複数の交通機関が組み合わされる場合における、交通機関の乗り継ぎの円滑化を図る。
- 公共交通と目的地の魅力を一体的にした情報発信や商品化する。そのために、多様な関係者が一体となった取組みを推進する。

### ✚ 平成19年度の取り組み

- **レンタカー利用実態調査(青森県)**  
レンタカー利用者に対してアンケート調査を実施し、訪問観光地や利用形態を把握。レンタカー利用者に対する情報発信等に活用していく。事業は19年度で終了予定。
- **津軽フリーパス(青森県)**  
津軽地域のJR、私鉄、路線バス乗り放題。対象地域内の観光施設の割引。また、弘前から白神山地方へ対象区間も拡大。
- **IGRとバスの乗り継ぎ企画乗車券の導入(岩手県)**  
IGRと県交通・県北バスによる企画乗車券の実証実験を検討。
- **PASMO・TOICA相互利用開始**  
首都圏の民鉄、JR、バスで利用可能なPASMOとJR東海の名古屋圏在来線で利用可能なTOICAが平成20年3月29日より仙台地区でも利用可能予定。

## ⊕ 平成19年度の取り組み(続)

- **仙台・宮城デスティネーションキャンペーンにおける広域観光PR(阿武隈急行)**  
地域一体的なPRを実施しながら、今後コンテンツの充実に力を入れて取り組む方針。
- **こころのふる里南会津観光誘客連絡会(会津鉄道)**  
南会津各町村及び東武、野岩、会津鉄道、東武トラベル及び地元観光団体、事業者によって組織。魅力ある旅行商品作りを推進する。JR西若松駅、会津若松駅、野岩、東武各鉄道会社と調整し、利用しやすいダイヤを作成。

平成20年3月29日  
より利用開始

# PASMO・TOICA相互利用開始

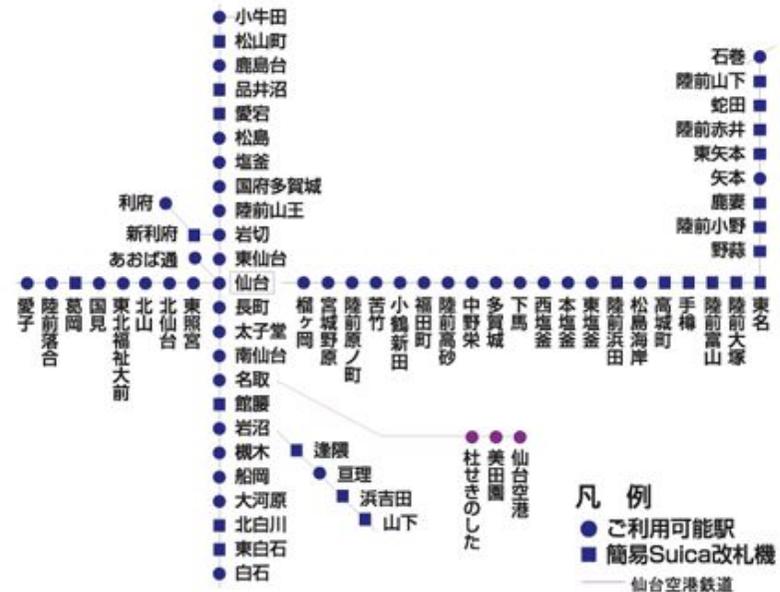
## ■ 相互利用の開始

現在、仙台圏で利用可能な「Suica」に加え、首都圏の民鉄、大手バス会社、JR各線で利用可能な「PASMO」と、名古屋圏のJR東海各線で利用可能な「TOICA」について、平成20年3月29日より相互利用可能となる。



## ■ 仙台圏での利用可能範囲

※当面の間は、仙台空港鉄道では相互利用不可能。



※他の鉄道会社はご利用になれません。

※□囲みの駅では、一部の改札口でSuicaがご利用になれません。

資料) JR東日本・JR東海、PASMO協議会各HP

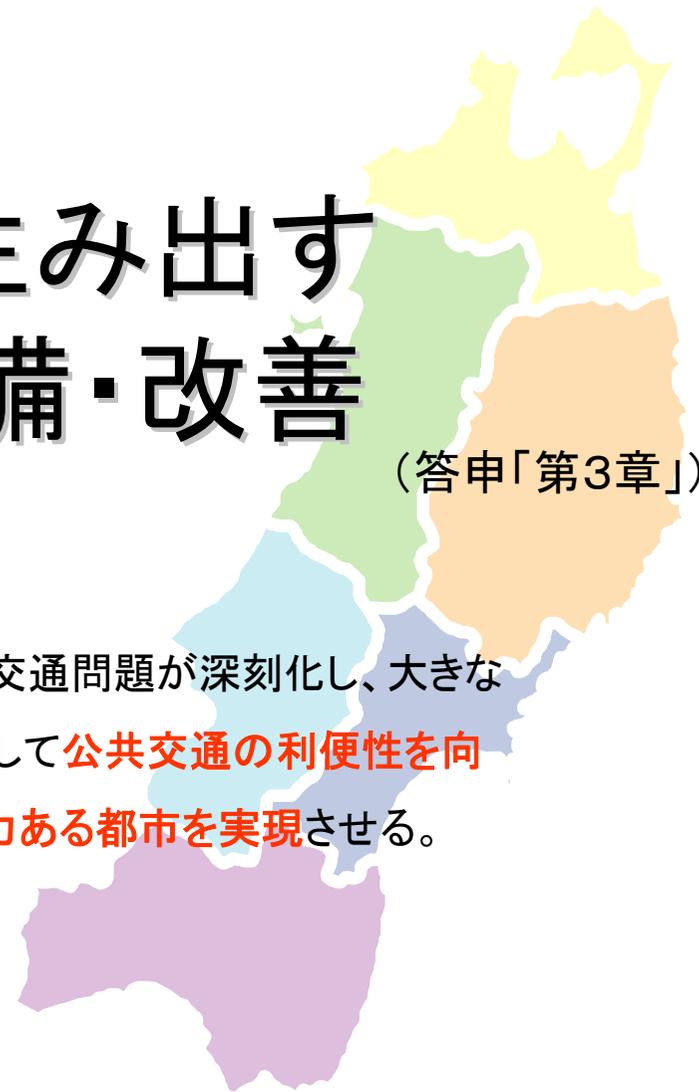
②

# 快適で活力を生み出す 都市交通の整備・改善

(答申「第3章」)

## 東北地方の交通の課題

都市部においては、道路交通渋滞などの都市交通問題が深刻化し、大きな社会的ロスが生じている。マイカー利用を抑制して公共交通の利便性を向上させ、都市内の移動を円滑化して快適で活力ある都市を実現させる。



## (1) 都市鉄道の機能強化

### ✚ 答申の要点

- 仙台市地下鉄東西線の整備と沿線まちづくりを着実に推進するとともに、駅前へのバスの乗り入れやパークアンドライドの推進等により、既存の鉄道の利便性向上を図る。

### ✚ 平成19年度の取り組み

- **長町駅東口駅前広場整備(JR東日本仙台支社)**  
鉄道と他交通機関との円滑な結節を図るため、国土交通省及び仙台市と連携し、当該箇所に駅前広場を整備する計画。なお、レイアウト、結節バス等については今後協議のうえ決定。
- **駅周辺地区における高度利用等の促進(仙台市)**  
地域と協働でのまちづくりを3駅で取組み中。今後、他の駅でも促進。駅周辺での高度利用については、複数地区で都市計画の見直しや開発協議を継続中。
- **仙台市地下鉄東西線工事(仙台市)**  
平成19年2月5日の着工以来、平成27年度の開業に向けて順調に進められている。

# 仙台市地下鉄東西線工事

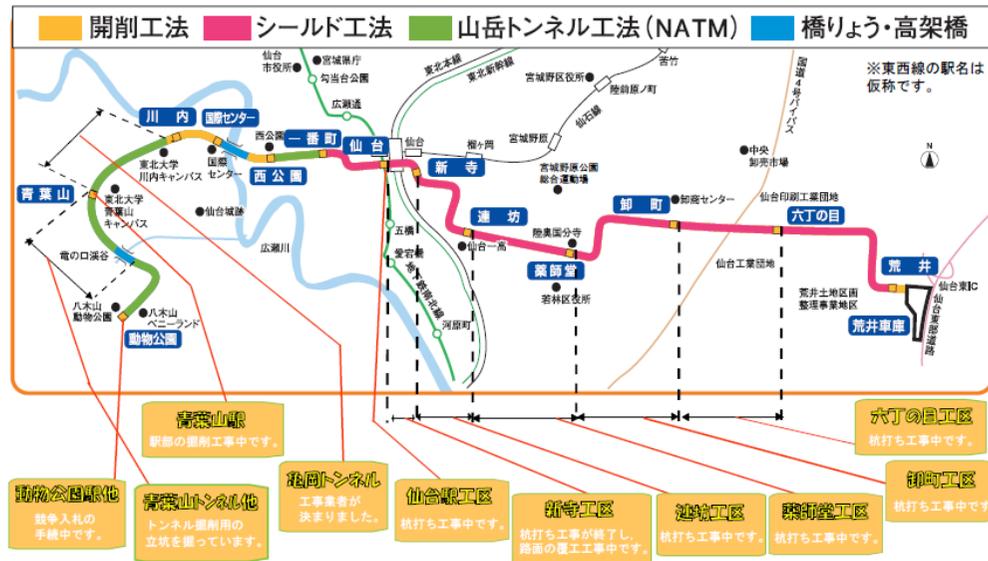


資料) 仙台市記者発表資料

## ■ 事業の概要

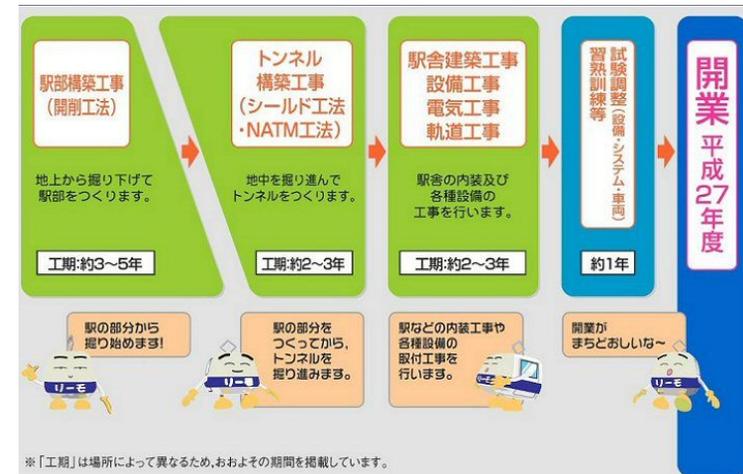
仙台市内の「動物公園駅」と「荒井駅」を結ぶ、約13.9kmの仙台市地下鉄東西線の本体事業が、平成19年2月5日に着工した。

## ■ 平成20年3月現在の工事進捗状況



建設区間	動物公園駅～荒井駅
営業キロ	約13.9km
総建設費	2,735億円
機種	リニアモーター地下鉄
開業予定	平成27年度

## ■ 工事スケジュール



資料) 仙台市HP

## (2) バス利用環境の改善

### ✦ 答申の要点

- 定時性確保や速達性の向上、利用者にとってわかりやすい路線網への改善等により、バスの利便性向上を図る。

### ✦ 平成19年度の取り組み

- **仙台市バスマップ**  
東北大学・宮城教育大学・東北工業大学を対象とした**大学エリア別のバスマップ(Bーマップ)**を作成し、平成20年度新入生が新居を選択する時期にあわせて配布。
- **各種臨時輸送計画等(仙台市)**  
従来よりGW, セタ, 光のページェント, どんと祭等のイベント及び大学入試等の際は, 交通規制に伴う運休・迂回をはじめ, 増客に伴う臨時便増発等の対応をとっている。17年度からは, フルスタ宮城へのシャトルバスも運行している。

事例紹介

# 仙台市バスマップ(大学との連携)

- 「学都仙台」と称されるほど、仙台市内には多数の教育機関が集中している。中でも青葉山・八木山地区には東北大学・宮城教育大学・東北工業大学が存し、多くの学生が勉学に励んでいる。
- 学生の主な通学手段はバイク・自転車で、公共交通(バス)の利用は僅か数%にとどまっている。
- 各大学は丘陵地に立地しているため、雨や雪の日に事故が発生(例えば、東北大学では、毎年120人以上の学生が死傷)している。

## ● B-マップ(大学生用バスマップ)の作成

東北大学・宮城教育大学・東北工業大学を対象とした大学エリア別のバスマップ(B-マップ)を作成し、平成20年度新入生が新居を選択する時期にあわせて効果的な配布を行うことで、**新入生がバス通学可能なエリアを居住地として選択**するよう誘導する。

## ● B-マップの特徴

### ○バス路線の表示の工夫

大学生の利用頻度の高いバス路線に限定して表示するとともに、線の太さで運行頻度を表すことにより、バス通学が便利な地域の選択が瞬時に可能。

### ○大学生の利用する施設を網羅

大学生がよく利用するコンビニ、スーパー、レンタルビデオ店等の位置情報を網羅。

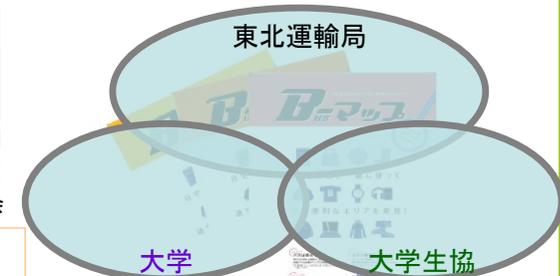
### ○大学生への高い訴求効果

大学での座談会における学生の意見等を参考にして、大学生への訴求効果の高い文言を表紙に掲載。

【例: 宮城教育大学「バスは必ず必要になります」】教育実習先となる、仙台市内上杉地区にある附属学校への移動には、バスの利用が便利です。



▲宮城教育大学での座談会



### ●協力体制

#### 大学生協

- ・生協発行の住宅情報誌にB-マップの情報を掲載。
- ・当該住宅情報誌を大学生に発送。

#### 大学

- ・合格関係書類にB-マップを同梱し発送。



## (3) 都市交通改善のためのタクシーの活用

### ✦ 答申の要点

- バスの運行が困難な深夜等の需要の少ない時間帯における乗合タクシーの導入や、高齢化社会へ向けた福祉輸送分野におけるタクシーの活用等、タクシーによる多様なサービスを提供することにより、都市交通の改善を図る。

### ✦ 平成19年度の取り組み

- **輸送の安全や旅客の利便の確保にむけた緊急調整地域の指定(仙台市)**  
「著しい供給過剰のため輸送の安全や旅客の利便を確保することが困難となるおそれがあると認められる地域」として「仙台市」が指定された。指定期間は新規参入や増車を禁止する措置を講ずることができることとされており、指定に係る基準を一部見直した上で、「仙台市」を同地域に指定するため、運輸審議会への諮問、答申を受けて指定された。

事例紹介

# 輸送の安全や旅客の利便の確保にむけた 緊急調整地域の指定(仙台市)

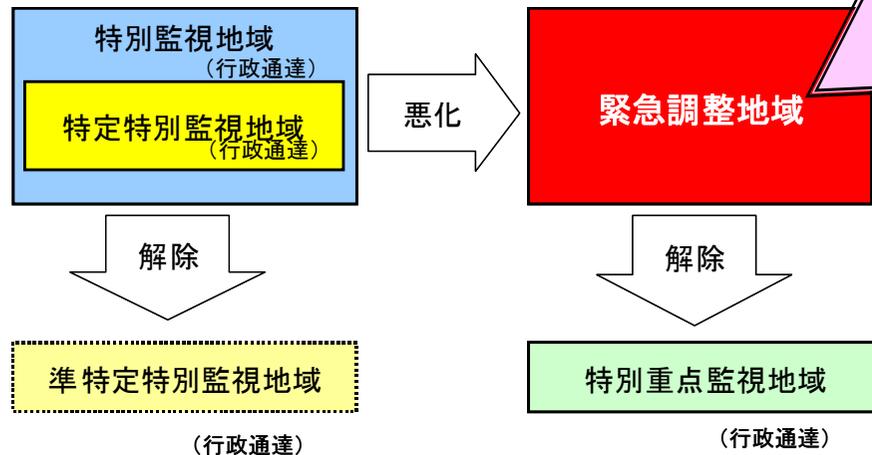
## ■概要

タクシー事業においては、道路運送法第8条の規定に基づき、著しい供給過剰のため輸送の安全や旅客の利便を確保することが困難となるおそれがあると認められる地域に対し新規参入や増車を禁止する措置を講ずることができることとされており、仙台市が指定された。

運輸審議会への諮問日:平成19年12月6日

指定期間:平成20年1月9日～平成20年8月31日

## ■一般乗用旅客自動車運送事業 における地域類型



### 【緊急調整地域】 (道路運送法第8条に基づく措置)

#### ■指定要件:

○需要関係に関する要件

①1日1社あたりの実車キロ及び営業収入が2年以上連続して減少、かつ、

②1日1車あたりの実車キロ又は営業収入について、前5年平均と比較して15%以上下回る又は前5年平均からの減少率が全国の前5年平均からの減少率と比較して15%以上下回る(当該地域で日車実車キロ及び日車営業収入が前5年平均を10%以上下回る場合)

○車両数に関する要件 延べ実働車両数が2年連続で増加

○安全に関する要件

事故の増減の傾向や全国平均との比較等に基づき総合的に判断する

○その他

次に掲げる各指標の動向に照らし、輸送の安全及び旅客の利便を確保することが困難となるおそれがあると認められる場合

・一定の安全関係の法令違反の件数(特に改善基準告示違反に係るもの)

・利用者からの苦情の件数(特に接客態度不良以外のもの)

#### ■指定に伴う措置:

(1)既存事業の増車 : 禁止

(2)新規参入 : 禁止

## (4) 交通結節点の改善による乗継ぎ利便性の向上とまちの賑わいの創出

### ✦ 答申の要点

- 交通事業者が一体となって交通結節点の乗り継ぎ利便性を向上するとともに、公共施設や商業施設等を誘致することにより、まちの賑わいの創出を図る。

### ✦ 平成19年度の取り組み

- **仙台駅西口整備(バスターミナルを核とした交通施設整備)**  
バス停留所が分散し、JR、地下鉄、バス等の乗り換えが複雑であり、タクシーが駅構内プールから溢れているなどの問題がみられる仙台駅西口において、バスターミナルを核とした交通施設整備を進めていくために検討を開始。

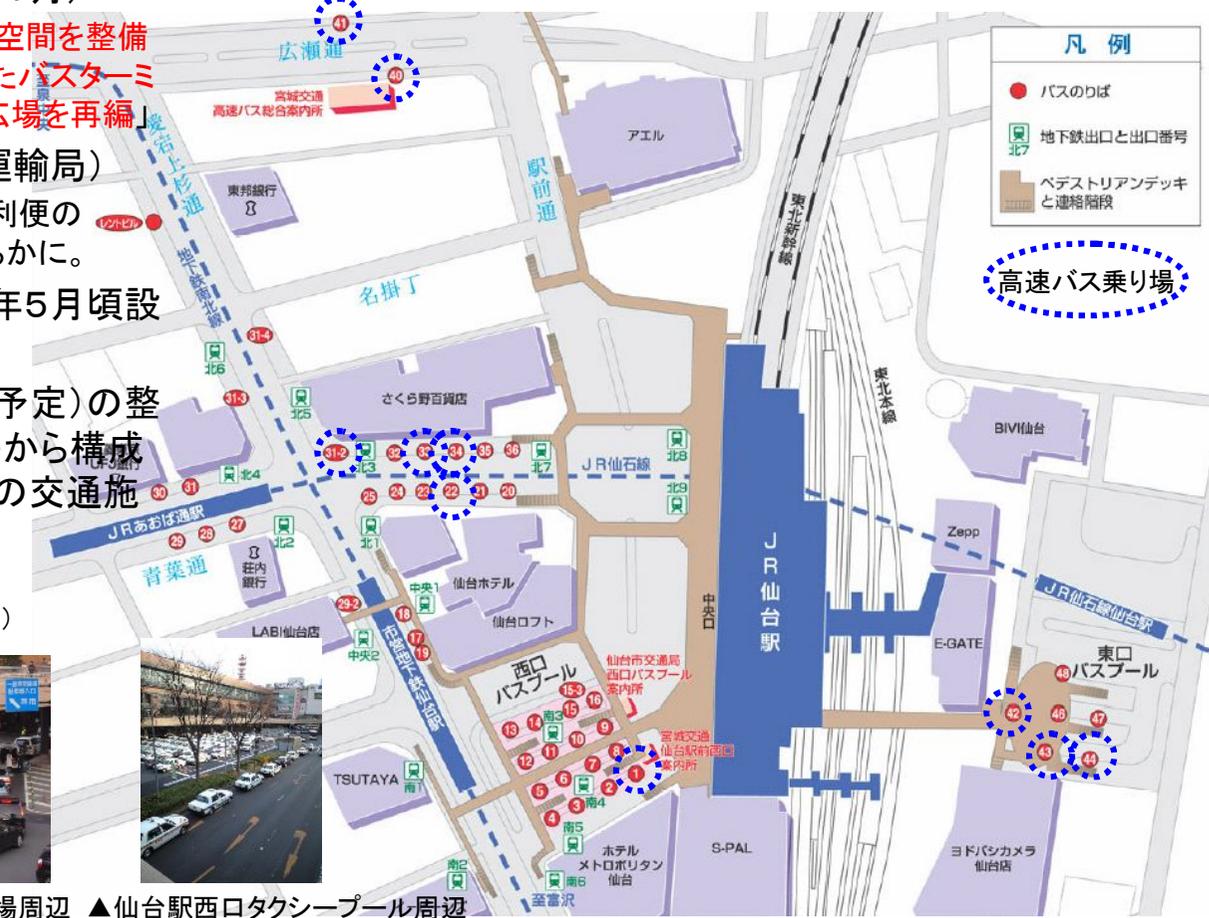
事例紹介

# 仙台駅西口整備

## ～バスターミナルを核とした交通施設整備～

- **仙台駅周辺における交通問題の顕在化**
  - 路線バス・高速バスの停留所が50ヶ所以上に分散。
  - JR、地下鉄、バスの各機関相互の乗換えが複雑。
  - タクシーが駅構内プールからあふれ、道路を占用。
- **仙台市都市ビジョン**(平成19年1月)
  - 「仙台駅周辺にシンボルとなる空間を整備するとともに、**高速バスを含めたバスターミナルを核として仙台駅西口前広場を再編**」
- **高速バス等の実態調査**(東北運輸局)
  - 高速バスと路線バスの乗継ぎ利便の向上が必要であること等が明らかに。
- **仙台駅構内にバス案内板**を今年5月頃設置予定(宮城県バス協会)
- **地下鉄東西線**(平成27年開業予定)の整備等を見据えながら、学識者等から構成される**懇談会**等を通じて、今後の交通施設の配置を検討

日本経済新聞(平成18年10月14日付)「観光を起こす:「玄関口」仙台に課題」(抜粋)  
 「高速バスの乗り場はどこですか」。仙台駅で重い荷物を抱えながら、乗り場を探す観光客は多い。迷うのも無理はない。乗り場は駅西口の仙台ホテル前や広瀬通バスターミナル、駅東口と行き先によってバラバラ。道案内の掲示もほとんどない。



▼仙台駅構内設置予定のバス案内板(イメージ図)



▲仙台駅西口一般車乗降場周辺 ▲仙台駅西口タクシープール周辺

## (5) 新サービス導入による公共交通の活性化

### ✦ 答申の要点

- 100円バスや鉄道・バスフリー乗車券等、新たな運賃体系の導入により、公共交通の利用促進を図る。
- 携帯電話やパソコン、ICカード等の情報通信技術を活用した施策の導入により、利便性向上や乗り継ぎの円滑化を図る。

### ✦ 平成19年度の取り組み

- **高速バスの青森港乗り入れ、高速バス・高速フェリー共通乗車券(再掲)**  
盛岡青森間の高速バスの一部の便が青森港に乗り入れることにより、盛岡函館間を高速バスと高速フェリーが待ち時間なしで接続。また、片道が2,460円お得になる共通乗車券が販売される。
- **「あおもり交通ナビ」設置に向けた検討(青森県)**  
東北新幹線の新青森開業を見据えて、鉄道・バス・航空・フェリーといった各交通機関の案内と県内の道路情報等をパソコン・携帯電話を通じて提供する新システム「あおもり交通ナビ」の設置を平成20年6月から開始予定。

# 高速バスの青森港乗り入れ、 高速バス・高速フェリー共通乗車券

## 事業の概要

- 高速フェリーの就航にあわせて、盛岡青森間の高速バスの一部の便が青森港に乗り入れ。
- 盛岡函館間を高速バスと高速フェリーが待ち時間なしで接続。盛岡函館間を5時間半でつなぐ。
- 青森港行き的高速バスは、1日2便H19年9月1日より運行開始。
- フェリー、バスセットで購入すると、運賃は片道2,460円お得。

日曜発	高速バス	高速フェリー	青森発	函館着
7:30	8:35	9:45	10:20	11:04
12:30	13:35	14:45	15:20	16:04



## (6) バリアフリー化の推進

### ✦ 答申の要点

- エレベータ等の設置やICカード乗車券の導入等のハード面のバリアフリー化に加え、「心のバリアフリー」のための施策を一層強化し、高齢層の利便性向上や公共交通の利用促進を図る。

### ✦ 平成19年度の取り組み

- **公共交通に関連した施設・車両・情報機器やソフト面等のバリアフリー化を促進するための施策（JR東日本盛岡支社）**  
バリアフリーと利便性向上のため、自治体との連携による矢幅駅橋上化の実施
- **E721系・SAT721系の導入（JR東日本・仙台空港鉄道）**  
バリアフリー化を実現した新型車両の導入による旧型車両の淘汰

# E721系・SAT721系の導入 (JR東日本・仙台空港鉄道)

## 概要

車体・台車構造の全体的な見直しや機器の薄型化などさまざまな工夫により、床面高さを大幅(701系比-180mm)に低減。ステップのないフラットな出入口としバリアフリー化を実現した車両である。

車内はセミクロスシートで、ロングシート座席幅やボックスシートの間隔を拡大し、ゆとりのある空間としている。

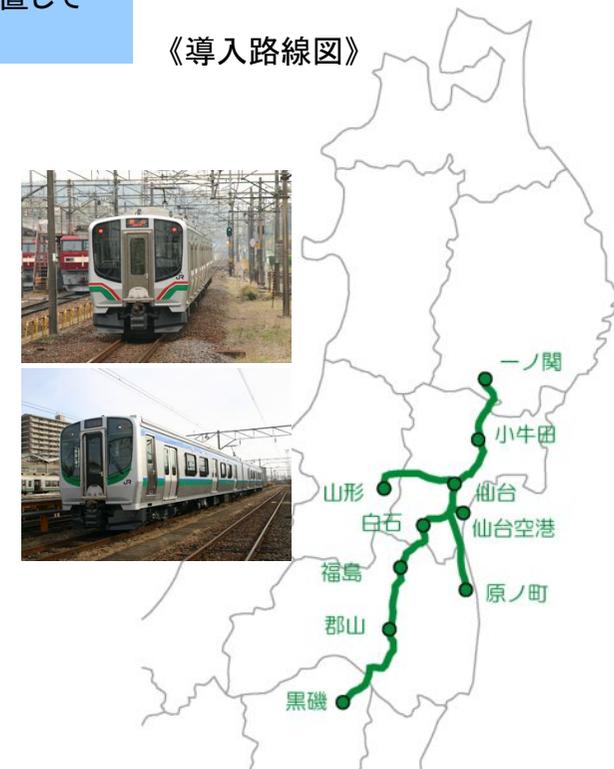
東北本線などで使用される0番代と仙台空港鉄道に直通する500番代の2種類がある。仙台空港アクセス車両は外部の帯の色が異なり車内には荷物スペースを設置している。

《ユニバーサルデザインの導入》  
(仙台空港鉄道直通列車)



▲車両

《導入路線図》



## 導入の背景と旧型車両の淘汰

東北本線や常磐線などJR東日本仙台地区の在来線では、国鉄時代から運用されている旧型車両が運行されていた。これらの老朽化した電車を置き換える目的でE721系は製造された。

旧型車両は1編成3両で片側2扉の車両であり、朝夕のラッシュ時において旅客の乗降に時間がかかる上に列車の遅れにつながるほか、日中でも2編成連結の6両編成で運用されることもあり、輸送力過多になるなど、輸送サービス上の課題となっていた。

第1編成は平成18年11月に落成した。翌2007年10月までの1年間で2両編成39本の計78両が導入され、旧型車117両を置き換えた。



▲バリアフリー対応のトイレ

資料) JR東日本HP等

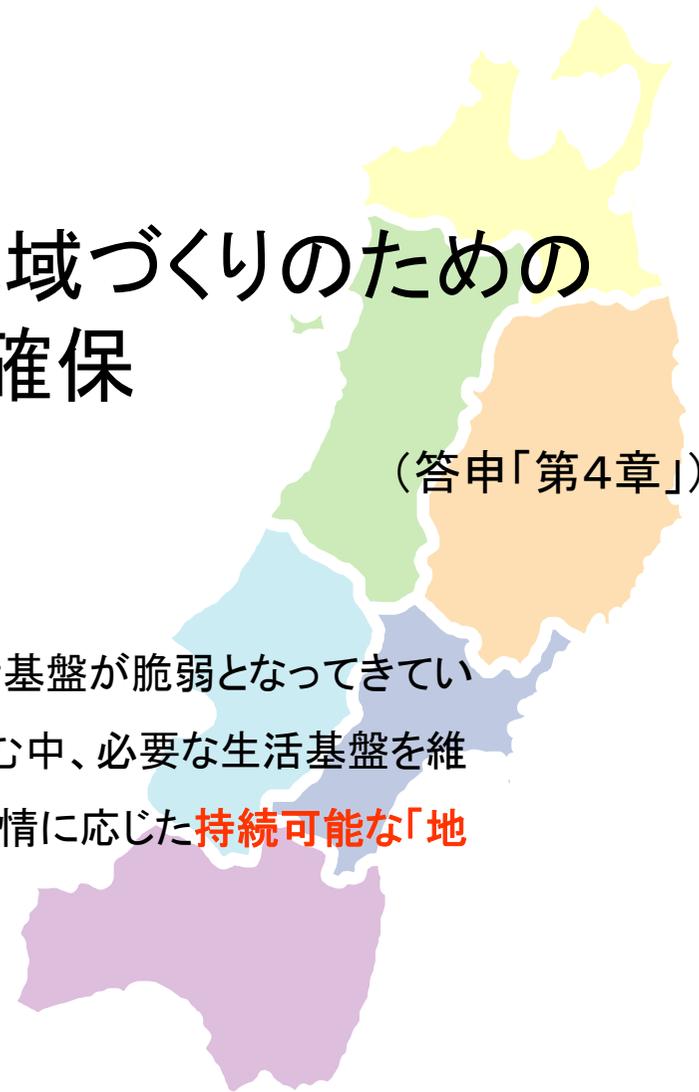
③

## 安心して暮らし続けられる地域づくりのための 「地域の足」の確保

(答申「第4章」)

### 東北地方の交通の課題

地方部において、公共交通をはじめとする生活基盤が脆弱となっ  
てきている。今後、急速に人口減少や少子高齢化が進む中、必要  
な生活基盤を維持することが必要であり、自動車から地域の実情  
に応じた**持続可能な「地域の足」への転換**を図る必要がある。



## (1) 地域一体となった公共交通のあり方の検討

### ✦ 答申の要点

- 路線バス等の廃止が進む中、地域の実情にあった公共交通の見直しを、地域住民の参画のもとに行っていくことが必要。

### ✦ 平成19年度の取り組み

- **西和賀町湯川地区における地域での協働による公共交通の実現にむけての調査(岩手県)**  
岩手県西和賀町の委託運行路線の維持が困難な状況のため、**地域住民の参加によるワークショップを開催し、バスの維持・活性化に向けて検討。**
- **地域住民と公共交通事業者が一体となって公共交通のことを考えていく施策(南部バス)**  
NPO法人と八戸マイバス検討委員会と協同で『地域と商業施設を結ぶ路線』を作りあげていこうと検討中。

事例紹介

# 西和賀町湯川地区における地域での協働による公共交通の実現にむけての調査

## 湯川線の現状

- ・ほっとゆだ駅と湯川温泉間の路線を、町が運行を委託(廃止代替路線.S59.10~)
- ・輸送人員は年々減少し、直近の調査では、平均乗車密度が1.2人まで減少
- ・収支差の拡大で、町の財政負担が増えており、維持が困難



▲湯川線の輸送人員の推移 →当初の約半分(2.3人→1.2人)まで減少

項目	60年度	2年度	7年度	12年度	17年度	18年度
輸送人員(人)	14,108	16,679	12,548	12,751	15,697	15,062
平均乗車密度(人)	2.4	2.3	1.7	1.4	1.3	1.2



### ●湯川線の主な利用目的

- ・通院、通学(58.4%)
- ・買い物(12.5%)
- ・通勤(8.3%)

## 課題

### ■改善策の検討

- ・移動制約者のために地域の足の確保
- ・観光地としての二次交通の確保
- ・地域の活性化

**地域住民が主体的に考え、取り組む必要性**

**住民参画によるワークショップの開催等(小・中学生からお年寄りまでの様々な年代毎のワークショップの開催)**

## 活プロでの取組み

### I.利用状況調査

→ワークショップへ反映

- ①乗降OD調査
- ②利用者意向調査
- ③温泉客利用状況調査

### II.代替交通手段に関する事例調査・適正分析

### III.需要予測(収支予測)

## 見込まれる成果

- ・各種データについては、新たな交通手段を検討する際の、基礎資料として活用
- ・他地域の先進事例となる

## (2) 地方鉄道、地方バス、離島生活航路の改善

### ✦ 答申の要点

- 極めて厳しい状況に置かれている地方鉄道や地方バス、離島生活航路の改善策を、NPOや地域住民等も含めて地域一体となって取り組むことが必要。

### ✦ 平成19年度の取り組み

- **仙山線の宝探しワークショップ(山形県)**  
平成18年度から行われている地域ワークショップの成果を活用しながら、新たな視点による提案も加え、沿線地域の連携のあり方について検討。
- **ショッピングセンターと連携したバス路線の運行(青森県)**  
八戸市内の既設路線の運行区間の短縮とあわせて、運賃、運行時刻等を見直し、ショッピングセンターラピア・ピアドゥ、市民団体、バス事業者が連携したバスとして平成19年4月1日より運行を開始。また、様々な試みを行う路線として位置づけ、「キリギリスバス」や「ハロウィンバス」などのイベントも実施。

事例紹介

# 山形県仙山線の宝探しワークショップ

平成18年度

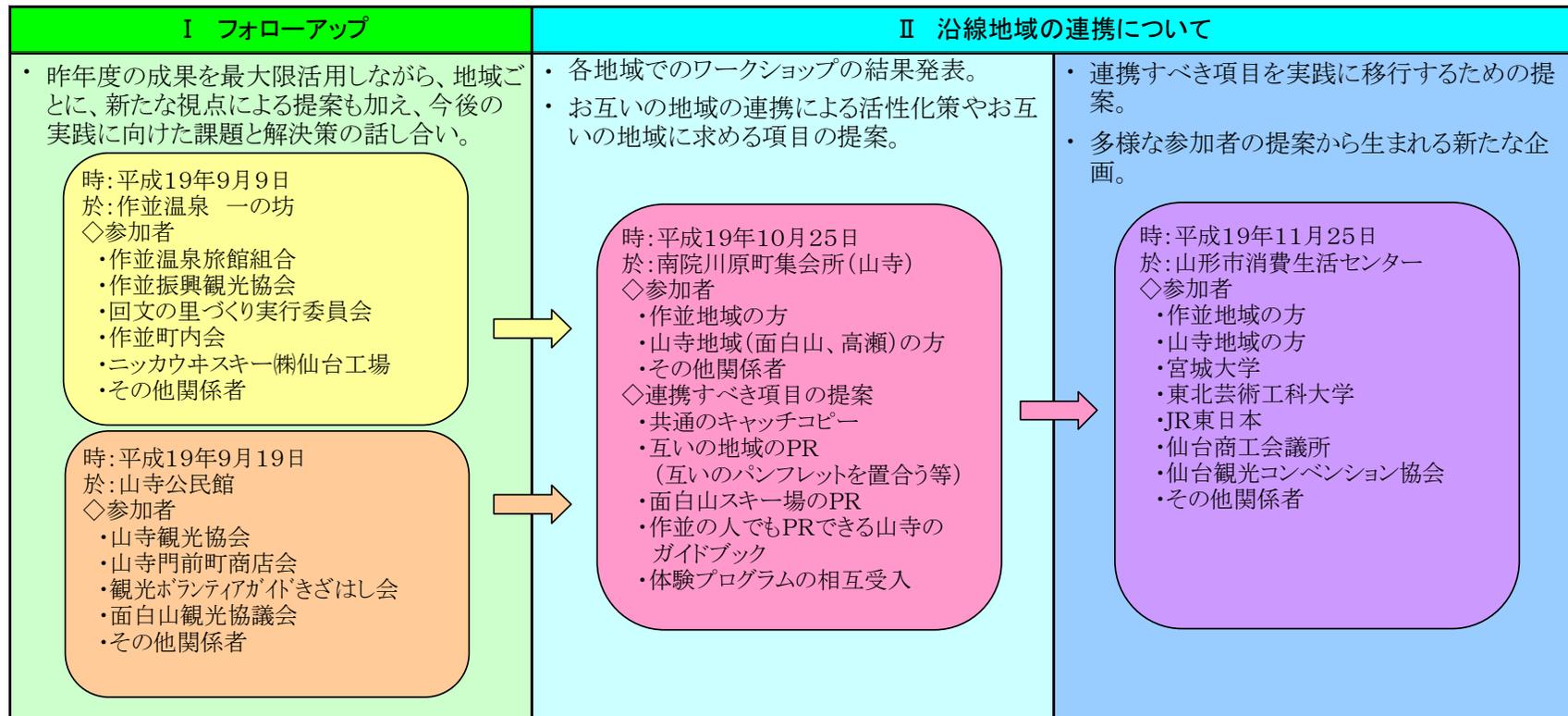
- ①仙山線を知る
- ②沿線の地域を知る
- ③それぞれの地域の魅力を高める話し合い

☆実践に向けた取組の推進(Ⅰ)

H18の成果を活用した実践活動への移行。(地域ごとの磨きあげ)

☆沿線の資源をつなぐ仙山線の役割(Ⅱ)

- ①各地域の持つ課題を連携によって解決する方法の検討
- ②多様な主体の連携による仙山線沿線の活性化策を提案



地域でのワークショップ

地域合同ワークショップ

全体ワークショップ

## (3) 新たな「地域の足」の開発と普及

### ⊕ 答申の要点

- 鉄道やバスの維持の見通しが立たない地域においては、これまでのバスやタクシーといった形態にとらわれない新たな「地域の足」を模索し、普及させていくことが必要。

### ⊕ 平成19年度の取り組み

- **地域公共交通の活性化・再生に関するセミナーの開催**

「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の成立を契機に法律の紹介やノウハウの提供、人材育成を図ることを目的として、仙台市、秋田市の2箇所で開催。

- **土木学会バスサービスハンドブック講習会の開催**

バスサービスを計画するための基本的な考え方や手順、技術を体系的に整理したハンドブックが土木学会より平成18年11月に発行され、その趣旨や内容などを解説するための講習会を平成19年3月15日に開催。

事例紹介

# 地域公共交通の活性化・再生に関するセミナー開催

## ■地域公共交通の活性化・再生に関するセミナー開催

・「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」が今年5月に成立したことを契機に、より多くの方々にこの法律を知っていただくとともに、各自治体において地域交通を担っている方々を対象に、今後、地域の交通プロデューサーとしてよりご活躍いただくためのノウハウの提供や人材育成を図ることを目的に、「地域公共交通の活性化・再生に関するセミナー」を開催した。

### ■プログラム(仙台市)

#### 1. 基調講演

「地域公共交通再生における自治体の役割」

東北大学大学院情報科学研究科 准教授 徳永 幸之

#### 2. 基調報告

「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律について」

国土交通省総合政策局交通計画課長 野俣 光孝

#### 3. 事例報告

①「今、モビリティ・マネジメントが求められている」

京都府企画環境部交通対策課長補佐 村尾 俊道

②「石巻市稲井地域乗合タクシー「いない号」の取り組み」

石巻市企画部総合政策課長補佐 狩野 之義

■参加人数 仙台市:約130名(5県47市町村の職員、NPO等が参加)  
秋田市:約140名(2県20市町村の職員、秋田市民等が参加)

▼仙台でのセミナーの様子



▼秋田でのセミナーの様子



④

# 環境に優しい交通体系の整備

(答申「第5章」)

## 東北地方の交通の課題

持続的な発展の大きな課題となっている**地球温暖化問題**に対して、東北地方の交通分野においても、**環境対策**を進める必要がある。



## (1) 車両の低公害化の推進

### ✦ 答申の要点

- 交通モードを問わず、車両を低公害化すると同時に、低公害車両の燃料供給箇所を整備していくことが必要。

### ✦ 平成19年度の取り組み

- 東北地方のCNG車台数は増加傾向。

導入台数	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	東北	全国
平成15年度末	0	0	133	3	1	5	142 (0.9%)	15,252
平成16年度末	0	1	187	3	3	11	205 (1.2%)	17,381
平成17年度末	0	0	223	4	3	16	246 (1.3%)	19,254
平成18年度末	0	0	261	4	3	17	285 (1.3%)	21,300

## (2) 効率的で環境に優しい物流体系の整備 ～物流のグリーン化～

### ✦ 答申の要点

- 効率化することによって環境対策に大きく貢献することが期待される物流において、高度かつ効率的な物流体系の整備やモーダルシフトの推進、静脈物流システムの構築等、グリーン化施策の一層の推進を図ることが必要。

### ✦ 平成19年度の取り組み

- **酒田港での内貿ユニット貨物の定期航路誘致の活動(山形県)**  
航路誘致に関する検討会を官民関係者で行い、物流量調査やポートセールスを展開する。
- **仙台市青葉区における荷捌き実験**  
市中心部の貨物車の荷さばきによる路上駐車に起因する道路混雑や通行の安全性低下の改善に向けた、地域にふさわしい駐車施策を検討するため実施。

事例紹介

# 仙台市青葉区における荷捌き実験

## ■実施概要

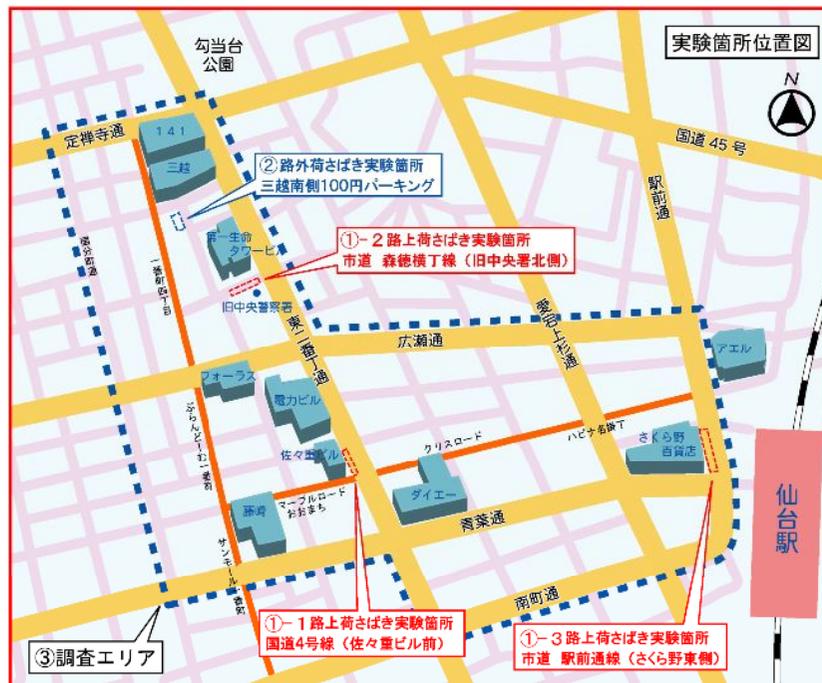
・市中心部の貨物車の荷さばきによる路上駐車に起因する道路混雑や通行の安全性低下の改善に向けた、地域にふさわしい駐車施策を検討するため実施した。

### 実験1

公道の一部を貨物集配中の貨物車に限り駐車可能とした交通規制の緩和を行い、利用時間は24時間、利用料金は無料とし、多くの貨物車の利用を考慮して1車両の荷さばき駐車時間は15分程度の利用を目安とした。【幹線道路2箇所、細街路1箇所計3箇所(11台分)】

### 実験2

民間の時間貸し駐車場の一部を貨物車の集配専用駐車場として確保の上、利用時間は午前8時から午後5時までの9時間、利用料金は30分あたり100円とし、車両の荷さばき駐車時間は30分程度の利用を目安とした。【一番町4丁目民間駐車場1箇所(4台分)】



### その他(本格実施)

平成18年2月の昼夜間を通じた実験結果をもとに、平成19年7月9日から、国分町の定禅寺通り～広瀬通り間を北進一方通行規制とし、あわせて、駐車マスを設け、貨物集配中の貨物車のみ駐車可能とした。



## (3) 旅客部門の環境対策 ～マイカー利用の抑制～

### ✦ 答申の要点

- 公共交通への転換を図るとともに、地域住民との合意形成を図りながら、生活空間や観光地においてマイカーの利用を抑制していくことが必要。

### ✦ 平成19年度の取り組み

- **エコ通勤定期券(八戸市)**  
通勤定期券所持者が、土日祝日に市営バス全路線を100円で乗車できるようにし、マイカーからの転換を図る。
- **仙台空港アクセス鉄道におけるモビリティ・マネジメント**  
仙台空港アクセス鉄道利用促進プロジェクト事業調査から、イオンモール利用者のマイカー利用率の高さが把握されたのを受けて、**鉄道への自主的な転換を促進するためにTFP調査を実施。**

事例紹介

# 仙台空港鉄道におけるモビリティ・マネジメント

## ■背景・目的

- 平成19年3月18日、仙台駅と仙台空港を結ぶ仙台空港アクセス線が開業。
- 定時性・速達性・大量輸送に優れる鉄軌道系の効果を最大限に発揮させるために沿線自治体や企業と連携しながらその利用促進を図る必要。

## ■沿線商業施設におけるアンケート調査

- 沿線商業施設において、仙台空港アクセス線の利用実態を把握するために、平成19年12月及び平成20年1月にアンケート調査を実施(合計1561人)。



## ☆仙台空港アクセス線利用促進のためのTFP

### ■アンケート調査結果

- 沿線商業施設を利用している人のほとんど(90.3%)がマイカーを利用。

### ■TFP(トラベル・フィードバックプログラム)の実施

- 鉄道利用への自主的な転換を図るため、アンケート回答者を対象に**TFP(トラベル・フィードバックプログラム)を実施**。
- 動機付け冊子、時刻表、モニター券等をアンケート回答者にプレゼントし、鉄道転換へのきっかけを作る。**
- 今後、アンケートを実施して、効果測定の予定。

モビリティ・マネジメント: 環境や健康などに配慮した交通行動を、大規模、かつ、個別的に呼びかけていくコミュニケーション施策

## (4) 環境負荷の小さい交通体系の構築

### ✦ 答申の要点

- 公共交通への転換を図るとともに、地域住民との合意形成を図りながら、生活空間や観光地においてマイカーの利用を抑制していくことが必要。

### ✦ 平成19年度の取り組み

- **ESTモデル事業の推進**  
CO2排出量の削減目標達成に向け、各事業を促進。



事例紹介

# 仙台市における環境的に持続可能な交通(EST)モデル事業

## 事業の概要

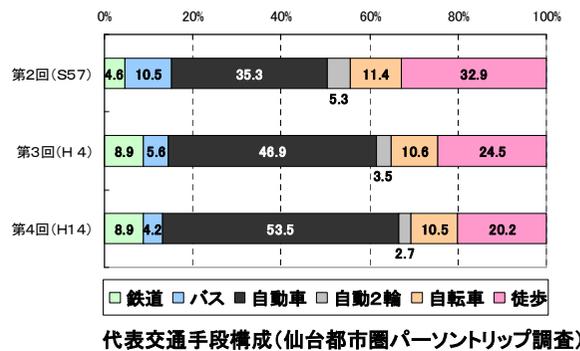
仙台市は公共交通を重視した総合交通体系の構築を目指すアクセス30分構想を策定し、公共交通による移動時間短縮や公共交通サービス向上、TDMを推進することにより、軌道系交通機関を基軸とした集約型市街地「コンパクトシティ」の形成や杜の都にふさわしい緑美しい都市「百年の杜づくり」の実現を目指している。

ESTモデル事業実施施策  
平成17年度～平成19年度



- 渋滞の緩和
  - ・幹線道路の整備  
北四番丁岩切線(幸町) ほか
  - ・交差点の改良  
国道48号木町通交差点
  - ・路上工事の縮減
- 景観・緑化事業等
  - ・電線共同溝に併せた歩道整備  
国道45号(原町地区等)
  - ・緑化によるCO2削減  
国道4号(東二番丁) ほか
  - ・共同溝事業  
国道45号仙台東部共同溝

### 《増大する自動車利用》



## 目標

平成19年度までに

対象エリアのCO<sub>2</sub>排出量を

**8,524 ton削減**

- ・渋滞解消による旅行速度の向上
- ・渋滞解消及び低公害車両導入等によるCO<sub>2</sub>排出量の削減

- 新駅設置  
JR東北線(仮称)南長町駅
- 既存軌道系関連道路等整備
  - ・アクセス道路の整備  
長町八木山線(土手内) ほか
  - ・駅前広場の整備  
JR東北線南仙台駅(東口) ほか

- 啓発事業
  - ・ポスターの作成・掲示
  - ・ステッカーの作成・配布
  - ・ホームページでのEST事業紹介
  - ・各種イベントにおける啓発活動

- オムニバスタウン計画その他のソフト施策
  - ・仙台市オムニバスタウン計画  
バスロケーションシステム、都心部バス100円均一運賃制度 ほか
  - ・その他のソフト施策  
低床CNGバス、低床アイドリングストップバスの導入 ほか
  - ・ITSによる円滑な移動の支援
  - ・市民や地元企業と連携した通勤交通需要マネジメント  
(P&R、時差通勤通学等)
  - ・自転車ルール・マナー啓発による利用環境向上

# 八戸市における環境的に持続可能な交通(EST)モデル事業

=テーマ= 「環境先進都市～八戸」の理念に相応しい環境的に持続可能な交通(EST)への転換

## 事業の概要

ESTモデル事業実施施策  
平成18年度～平成20年度

八戸市は、「環境への負荷の少ない持続的に発展することができる環境先進都市」の実現を掲げる「八戸市環境基本条例」(H16.12.27公布)の趣旨を踏まえ、運輸部門における環境負荷低減対策として、バス路線網の再編・再構築等により公共交通の持続性・利便性を高めるとともに、道路環境の整備等により渋滞緩和を図り、環境的に持続可能な交通(EST)への転換を目指す。

市営バス乗合輸送人員	1654万人	1110万人	860万人
市内自動車登録台数	14.7万台	16.8万台	17.2万台

この10年間で、乗合バスの乗車人員は約5割減！  
自動車等の保有台数は約2割増！

公共交通の再編・再構築と  
道路環境の整備等により...

## 目標

平成20年度までに対象エリアの  
CO2排出量を  
**8,658t-CO<sub>2</sub>(約3.2%)削減**  
(対未対策時)



公共交通体系の再編・再構築  
・南郷コミュニティ交通事業の推進

環境的に持続可能な交通モデルの検討・周知啓発

・広報、CATV、各種イベント等の活用による周知啓発



主な施策

バスを活用した関連施策

・低公害車の導入  
・環境通勤定期券、子ども探検隊エコパスポートの発行  
・新バスロケシステムの導入  
・ITSサービスの利用促進

環境とひとにやさしい「みちづくり」

・国道45号八戸南道路一部区間暫定供用開始  
・国道45号八戸バイパス(新井田～妙)の4車線化  
・歩道整備(くらしのみちゾーン形成事業 など)

第二編

觀光振興戰略



# 構 成

## ◆ 取り組むべき施策

- ① 地域の観光魅力の向上
- ② 誘客活動・情報発信
- ③ 観光振興に向けた交通の改善

①

# 地域の観光魅力の向上



## (1) 地域の長所・特性の活用

### ◆ 答申の要点

- 祭り・伝統芸能、温泉、自然・四季の彩り、歴史・文化、食、雪、スポーツ、田園・中山間地域等の景観・生活様式、都市、地域の産業等、「地域ならではの」「東北ならではの」の観光魅力を発掘・育成し、活用する。

### ◆ 平成19年度の取り組み

- **観光ルネサンス事業「平泉町」・世界遺産登録に向けた動き**  
民間組織が中心となり、柔軟な発想で創意工夫をこらし、地域の特色を生かした個性あふれる観光地づくりのための補助制度である「観光ルネサンス事業」に、平泉町が選定された。世界遺産登録に向けて、(社)平泉観光協会が主体となり、平成19・20年度に事業実施。
- **みやぎ滞在・周遊型観光資源発掘事業(宮城県)**  
季節毎の観光ルート、滞在型の観光資源の発掘等、新たな観光ルートを設定。
- **作並地区観光振興推進事業(仙台市)**  
作並地区の温泉や自然など恵まれた地域資源を活かし、地域住民や観光客の交流拠点となる施設を整備する。《みやぎ観光戦略プラン》策定期間内に盛り込まれている主な市町村事業の一つ。
- **「出羽の古道」キャンペーン(山形県)**  
出羽三山を中心とした精神文化をPR。
- **広告宣伝資料作成(東北の桜(花)だよりパンフレット作成)(東北6県観光協会)**  
東北の観光資源(個別テーマ)PRによる首都圏からの誘客促進。

事例紹介

# 観光ルネサンス事業－平泉

## 観光ルネサンス補助制度の概要

- 2010年までに訪日外国人旅行者数を1000万人に倍増させる、との政府目標を達成するためには、ビジット・ジャパン・キャンペーン等による海外への情報発信などとあわせて、訪日外国人をもてなす国内の観光地の魅力向上が急務である。
- 近年の観光地を見ると、自治体の活動とは別に、観光カリスマなど、意欲の高い民間人の積極的な活動により活性化に成功している例が数多く見られる。そこで、観光地の活性化に取り組む「民間」の活動を支援する観光ルネサンス補助制度により、観光地の国際競争力の向上を促進する。

## 世界遺産「平泉 HIRAIZUMI」交流地域づくり事業(平成19・20年度)

- 実施主体:(社)平泉観光協会
- 平成19年度事業
  - ①国彩 HIRAIZUMI 情報発信事業
  - ②HIRAIZUMI 散策マップ・パンフレット作成事業
  - ③Welcome HIRAIZUMI ～事業
  - ④世界遺産登録記念イベント「世界遺産の地に息づく文化・平泉水掛神興」
  - ⑤国彩 HIRAIZUMI 歳時記紹介
  - ⑥「ぐるーりHIRAIZUMI」語り部タクシー調査事業
  - ⑦外客満足度調査事業
  - ⑧外国語併記施設案内サイン整備事業(ハード事業)
  - ⑨外国語併記施設誘導サイン整備事業(ハード事業)
  - ⑩お休み処設置調査事業
  - ⑪歴史街道 気分は西行・芭蕉みち整備事業



▲中尊寺金色堂新覆堂



▲毛越寺・あやめと浄土庭園

## (2) 観光需要の構造変化を踏まえた対応

### ◆ 答申の要点

- 外国人や中高年者、小グループ等、今後増大が見込まれる新たなターゲットが観光しやすい環境づくりを行う。

### ◆ 平成19年度の取り組み

- **地域限定通訳案内士育成事業(岩手県)**  
外国人観光客の増加が見込まれる平泉地域周辺を中心に、外国人観光客が訪れやすい環境づくりを推進。県全域へ観光案内版(4カ国語)を整備。本事業は全国初の取り組み。
- **観光情報発信機能強化事業(岩手県)**  
県観光ホームページの全面リニューアルを予定。個人旅行者の旅行プラン作成に役立つような情報を掲載。今後とも内容を充実。県観光ホームページの全面リニューアルにより、ブログコーナーを設置予定。

## (3) 異業種間連携や、NPO・地域住民とも 一体となった地域の魅力の向上

### ◆ 答申の要点

- 観光施設、宿泊施設、飲食店、商店、NPOや地域住民等が連携し、地域を上げた総力戦として観光魅力のある地域づくりを進める。

### ◆ 平成19年度の取り組み

- **周遊マル得プラン(津軽鉄道)**  
点在する4観光施設とそれを結ぶ鉄道ならびに宿泊施設と一緒に企画。観光利用してポイントをためれば宿泊料を割り引く。

事例紹介

# 奥津軽周遊 **得** プラン (津軽鉄道)

## 概要

- 津軽鉄道沿線の4施設の入場料や、津軽鉄道乗車券を購入時に、各施設や駅窓口へチラシを提示することで、利用1回につき400ポイント(1ポイント1円換算)を収集できる。
- 貯めたポイントによって、湯元津軽富士見ランドホテルの宿泊料が最大2,000円割引になる。

## 割引対象施設

- 津軽三味線会館：入場料500円で400ポイント
- 立佞武多の館：入場料600円で400ポイント
- 斜陽館：入場料500円で400ポイント
- 津軽鉄道：対象区間乗車券530円で400ポイント
- 津軽金山焼：500円以上購入で400ポイント

## 期間

- 平成19年3月10日～10月31日  
(大型連休、ねふた祭り期間中を除く)

## 主催

- 燃える奥津軽 津軽金山焼
- 立佞武多の館
- 湯元津軽富士見ランドホテル
- 津軽鉄道
- 斜陽館
- 津軽三味線会館

資料) 津軽鉄道HP

観光施設を観るならこの企画! 【期間限定】3/10~10/31 (大型連休、ねふた祭り期間中除く)

# 奥津軽周遊 **得** プラン

入場料や乗車券をお支払いの際、各施設や駅窓口へこのチラシを提示すれば、ポイント欄に認印致します。ポイントを貯めて安く泊まろう!

ご利用1回につき400ポイント差し上げます。(1ポイント1円換算です)  
※このプランをご利用する場合、各施設の団体割引や共通券の割引は対象外とさせていただきます。  
※また、宿泊を希望される方は、必ず空室状況を確認の上、予約して下さい。

**A ~ E の認印されたポイント合計を最大 2,000円 OFF**  
観光施設を周れば周るほど、こんなにお得になる。

一泊二食税込 (2名以上)  
**10,650円**  
**8,650円**

**オプション**  
観光タクシーを付けることも可能。2名以上で1人3,150円 (詳しくはお電話で!)

**津軽三味線会館** (A) 入場料500円 400ポイント  
津軽三味線の発祥地、秋元忠三郎の生誕地(大館市)を再現した、津軽三味線の本場津軽三味線会館で。

**立佞武多の館** (B) 入場料600円 400ポイント  
寛政5年(1793)の江戸大立立佞武多を再現。大立の歴史を伝えるため、その歴史を体感できる。

**斜陽館** (C) 入場料500円 400ポイント  
津軽が生んだ作家、大空の生家。祖伝の酒造り入札と津軽の歴史を伝える。今年で100年となる、国の重要文化財。

**津軽鉄道** (D) 乗車券530円 400ポイント  
【対象最寄り駅】五所川原～金木駅  
ストーリー性のある鉄道。車窓に広がる田舎風景。包み込む津軽の歴史「北の道」が観光地を結ぶ。

**津軽金山焼** (E) 400ポイント  
焼酎を一切使わない焼酎焼酎と焼酎の味。美味で自由。現在は表書きとびつり焼酎と美味しい焼酎が揃っています。

500円以上お買い上げの方に認印致します。

**お湯宿つがる**  
湯元津軽富士見ランドホテル  
里山風情がなつかしい純和風の温泉宿。眼下に津軽平野の大眺望と、郷土の味をお楽しみ頂けます。  
青森県五所川原市羽野木沢字隈無240-163 TEL 0173-29-3260

【主催】燃える奥津軽 津軽金山焼/立佞武多の館/湯元津軽富士見ランドホテル/津軽鉄道/斜陽館/津軽三味線会館

## (4) 東北地方全体としてのレベルアップ

### ◆ 答申の要点

- 訪れた観光客に満足感を与え、観光客のリピーター化や「口コミ」による来訪者拡大を図る。

### ◆ 平成19年度の取り組み

- **東北広域観光モデルルート(東北観光推進機構)**  
東北地方における広域的な観光を促進するために、東北観光推進機構がモデルコースを設定し、「東北ものがたり」と「東北広域観光モデルコース」の2種類パンフレットを発行。
- **まちめぐりナビプロジェクト**  
観光客への情報提供の高度化による移動支援を図り、もって先進事例として地域の観光振興を推進することを目的とした補助事業。平成19年度には、青森県青森市、宮城県気仙沼市、秋田県横手市、山形県米沢市、福島県会津若松市、福島県二本松市(岳温泉地区)の6箇所を実施。

事例紹介

# 東北広域観光モデルルート

## 「東北ものがたり」・「東北広域観光モデルコース」

### ■ 東北の風土に息づく歴史や文化をテーマに、新しい旅を提案

- ・ 豊かな自然や、多くの魅力的なものがたり、地方ならではの郷土料理といった東北の風土、文化を広域観光の視点から見つめなおし、貴重な観光資源として有効に活用していくことを目的に冊子として取りまとめた。

### ■ 東北ものがたり

- ・ 東北の風土に息づいた歴史や文化を中心に、食、温泉、自然などをテーマとした全11ルートを物語風に綴っている。
  - テーマ1: 芭蕉の旅を支えたみちのくの人たち
  - テーマ2: かつて日本海の湊をつなぐ北前船の回廊があった
  - テーマ3: 風土をたずね、情緒を味わう湯の街めぐり
  - テーマ4: 時を超え、いきる、悲劇の武将義経
  - テーマ5: 奥州に始まる栄華の伝説 黄金の国ジパングに行く
  - テーマ6: 山野河海のみぐみを鍋で味わいつくす
  - テーマ7: 異邦人イザベラ・バードが見た東北の人と文化
  - テーマ8: こどもたちの玩具「こけし」
  - テーマ9: 家康に挑んだ、直江兼続
  - テーマ10: 世界に誇る大いなる遺産
  - テーマ11: 東北の水紀行

### ■ 東北広域観光モデルコース

- ・ 「東北ものがたり」で示した11ルートを、各テーマに沿って、全21コースの2泊3日、3泊4日の具体的な旅行日程にまとめたもので、観光資源の見どころや食の楽しみを盛り込むなど、実際の旅行商品の企画造成に必要な情報を網羅した内容となっている。



②

## 誘客活動・情報発信



# (1) 東北地方の官民が広域連携し一体となった 外国人観光客の誘致活動の強化

## ◆ 答申の要点

- 今後、東アジア地域を中心に国際観光需要の飛躍的増大が見込まれる中で、海外市場における東北の知名度向上・イメージの浸透を官民が広域連携し一体となって進める。

## ◆ 平成19年度の取り組み

- **東北観光推進機構設立**  
新潟県を含む東北7県の官民一体となった「推進機構」を平成19年6月に設立。
- **Yokoso Japan 東北・2007**  
東北6県の官民が一体となって、海外の重点市場(韓・台・米・中・香・タイ・シンガポール・豪・仏・独)から旅行エージェント41名、マスコミ16名のキーパーソン合計57名を招聘。
- **台湾に対するプロモーションの展開**
  - 日・台マーケティングセミナー<台北> ((社)日本観光協会東北支部)
  - 東北プロモーションin台北 ((社)日本観光協会東北支部)
  - 台湾国際旅行博覧会出展<台北> ((社)日本観光協会東北支部)
- **東北地域への旅行のモデルコース作成と海外(アジア)の旅行会社に対する直接営業((株)JTB東北)**  
国際事業部を中心に、東北の観光情報を海外の旅行会社に積極的に提供していく。

事例紹介  
事例紹介

# 東北観光推進機構設立

## 新潟を含む東北7県の官民一体となった「東北観光推進機構」の設立(平成19年6月7日)

全国より急速なペースで人口減少が進む東北(対2005年度比 2020年推計人口:全国 -3.6%、東北 -9.6%)においては、  
観光による交流人口の拡大が極めて重要

### 強み

#### ○恵まれた観光資源

東北地方の自然系観光資源の数は  
全国1位(財団法人日本交通公社調べ)

#### ○高速交通網の整備

平成4年度 山形新幹線開業  
平成9年度 秋田新幹線開業  
平成22年度 東北新幹線八戸～新青森開業予定

### 弱み

#### ○認知度の低さ

○外国人訪問客の少なさ  
我が国全体の約4%

#### ○組織が複数存在することによる非効率

東北広域観光推進協議会、東北6県観光推進協議会 等

東北観光の認知度向上や観光客の誘致推進等を目的として  
「東北観光推進機構」を設立(平成19年6月7日)

### 概要

- 会長:東北経済連合会会長
- 事業規模:平成19年度約1億4千万円、平成20年度約2億円
- 職員:15名(行政及び民間から構成)
- 東北運輸局長、北陸信越運輸局長、東北地方整備局長が顧問

### 業務

- 国内外の観光客に対する東北の認知度・満足度向上のための事業
- 国内大都市圏からの観光客を東北に誘致する事業
- 東アジアを中心とした海外からの観光客を東北に誘致する事業
- 東北の観光振興のための総合的な役割を担う推進体制づくり

### 国による支援案

- 観光拠点等におけるまちづくり、地域づくり
- VJC事業によるインバウンドの推進
- 広域観光モデルルートに対する支援
- 広報活動への協力

(東北広域観光推進協議会、東北6県観光推進協議会を整理統合)

### ▼東北観光推進機構の設立総会



## Yokoso Japan 東北・2007

東北6県の官民が一体となって、海外の重点市場（韓・台・米・中・香・タイ・シンガポール・豪・仏・独）から旅行エージェント41名、双葉16名のキーパーソン合計57名を招聘。  
「東北視察ツアー」「交流商談会」「インバウンドセミナー」等を実施し、東北の「四季」等の魅力を、重点市場に対し強力に情報発信し旅行商品造成を図る。

### 事業概要

日程：2007年11月5日（月）～11日（日）

11月10日（土）交流商談会、インバウンドセミナー（宮城県仙台市）

参加者数：海外からの招聘者：57名、インバウンドセミナー：385名

主催：「YOKOSO! JAPAN 東北」実行委員会



### 東北視察ツアー

各重点市場毎の旅行エージェント及びマスコミが、同一コースで東北各地を周遊し、東北の秋を中心とした「四季」及び観光資源（風景、温泉、食など）を視察・体感（6コース）

視察コース図(案)

### 交流商談会及びインバウンドセミナー

#### 【交流商談会】

～東北の行政・観光関係者等と海外旅行エージェントによる具体的な商談～

#### 【インバウンドセミナー】

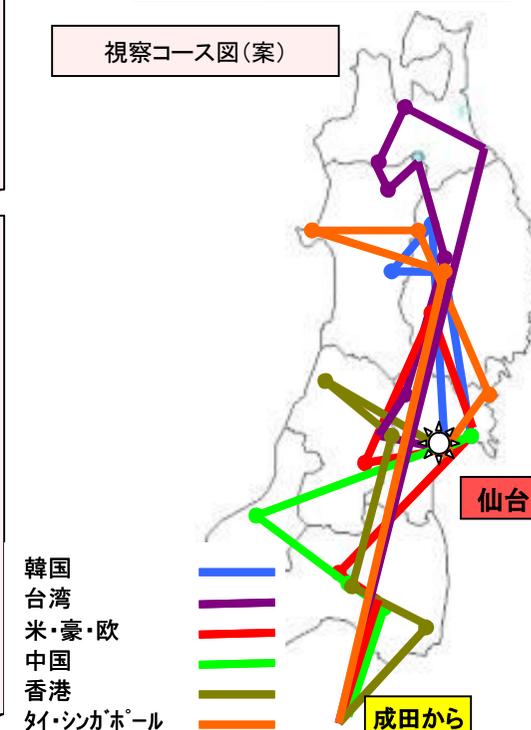
～海外からの招聘者によるインバウンド振興へのアドバイス～

～国際的視点にたった東北らしい日本の美のトーク～

独立行政法人 国際観光振興機構ツーリストインフォメーションセンター長 谷口 せい子氏

#### （地域伝統芸能実演）

～「石巻渡波獅子風流」～、～「仙臺すずめ踊り」～



## (2) 国内観光の誘致活動の充実

### ◆ 答申の要点

- 東北に対する観光イメージが希薄で、広域的な周遊観光ニーズが強いと考えられる地域を中心に、東北の観光イメージを強力に浸透させる取組みを進める。

### ◆ 平成19年度の取組み

- **ふくしま花見山観光乗車券の発行(阿武隈急行)**
- **仙台・宮城デスティネーションキャンペーンとその連携事業(宮城県・山形県)**  
 ー平成20年度予定の仙台・宮城デスティネーションキャンペーンのプレキャンペーンの実施。  
 ー平成20年度予定の仙台・宮城DCキャンペーンのイベントと連携し、四寺回廊、陸羽東線、おとぎ街道を軸とした周遊ルート確立。
- **やまがたの魅力情報発信事業(山形県)**  
 「やまがた発!旅の見聞録」の放送。各温泉地による情報発信機能を付加し、情報発信型・マガジン型サイトとして、テーマ観光等の情報発信。
- **「山形の旅」旅行商品事業家支援事業(山形県)**  
 民間、NPO、商工団体等から応募される「観光素材」を旅行AGTとのマッチング、ブラッシュアップ等で支援し、商品化。
- **教育・体験型観光推進事業(山形県)**  
 グリーンツーリズム資源を活かしたモデルコースを設定し、パンフ、意向調査等を実施、誘致活動を実施。

事例紹介

# 仙台・宮城DC(デスティネーション・キャンペーン)

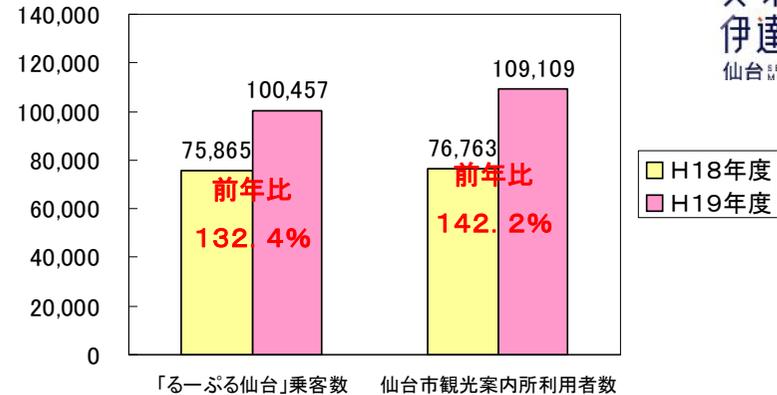
- デスティネーションキャンペーン(DC)とは
  - JR6社が中心となって地方自治体、観光関係者及び商工業界等各産業が連携して行う大型観光キャンペーン
- 仙台・宮城DCの概要
  - 地方自治体、観光関係者及び商工業界等各産業が連携して、観光の視点を活かした観光振興の推進、地域観光・産業界の活性化を図るとともに、DC以降も継続できる官民一体となった観光誘致のための仕組みを作り上げ、魅力的な観光エリア「みやぎ」を確立するための「きっかけづくり」と位置づけ、各種事業を実施。**宮城県が単独でDCに取り組むのは初めて。**
- プレキャンペーン
  - 本キャンペーンの準備活動として、平成19年10月1日から平成19年12月31日まで
- 本キャンペーン
  - 平成20年10月1日から平成20年12月31日まで
- 宮城県外周辺の自治体の参加
  - 会員：一関市、平泉町(以上岩手県)、福島市、伊達市(以上福島県)、山形市、天童市、最上町(以上山形県)
  - 賛助会員：湯沢市(秋田県)、新庄市(山形県)
- 国の参画
  - 東北運輸局長が仙台・宮城DC推進協議会に「参与」として参画。
- プレDCの実績
  - 仙台市観光シティループバス「るーぷる仙台」の乗車人員は、対前年同月比**132.4%**。
  - 仙台市総合観光案内所利用人数は、対前年同月比**142.2%**。
  - 県内外のキャンペーンエリアにおけるサンプル調査の結果、対前年同月比で観光客数**107.3%**、宿泊客数**104.8%**、交通機関の乗車人数**110.9%**。
- 仙台・宮城DCの経済効果
  - 仙台・宮城DCにより観光客が140万人(10%)増加した場合の**経済波及効果は240億円**と推計(七十七銀行)。

仙台・宮城DC  
シンボルマーク ▶



美味し国  
伊達な旅  
仙台 SENDAI 宮城

▼るーぷる仙台と仙台市総合観光案内所の利用人数(10~12月)



出典：仙台・宮城DC推進協議会事務局、  
仙台市観光交流課

③

## 観光振興に向けた交通の改善



# 観光振興に向けた交通の改善

## ◆ 答申の要点

- 二次交通の整備や外国人に対応した案内の充実、イベント開催時等の対応の強化等、東北地方内の移動を円滑にする取組みを行う。

## ◆ 平成19年度の取組み

- **三春町滝桜の観桜期における駐車場運営管理及びシャトルバス、循環バスの運行(JTB)**  
イベント実施時の集散交通取扱のノウハウを活かし、祭や観光地の渋滞対策のコンサルティングなどにより、課題解決を図り、地域に貢献することを想定。
- **鉄道に合わせたタクシープラン(JR東日本盛岡支社)**  
「さんりくトレイン北山崎号」の運転に合わせて、タクシーによる観光コースがセットとなった会員タクシーを運行。
- **広域連携観光推進事業(岩手県)**  
広域観光団体が行う二次交通充実のための取組みに対して、費用の一部を助成。
- **鉄道駅を起点とした周遊バスの運行(会津鉄道(株))**  
会津鉄道の駅から主要な観光地を回る「しもごうベルトライン号」が、平成18年7月～11月の土休日に運行。
- **県都福島実証実験(福島市)**  
市内循環バス乗り放題券や循環バスと鉄道との共通乗車券の販売、観光施設、飲食店等の割引クーポンの付与など、観光施設と公共交通機関等の連携による公共交通機関の利用促進。

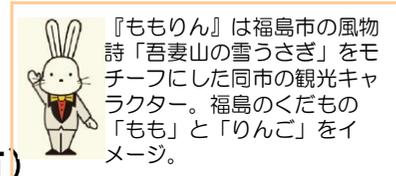
# 県都福島実証実験 (市内循環バス乗り放題券、観光施設・飲食店等割引)

## ・東北における観光の重要性

- 東北の旅行消費額(1.97兆円)(1次・2次効果は含めない)は、農業産出額(1.38兆円)、漁業生産額(0.20兆円)、林業産出額(0.06兆円)より多い。(出典:平成19年8月23日付け各県への照会(東北運輸局)、アナリーゼふくしま、農林水産省農林水産統計「平成17年農業産出額」「平成17年漁業生産額」「平成17年林業算出額」)

(注1)旅行消費額の年度は統一されていない

(注2)秋田県及び山形県の漁業生産額には、養殖業に係るものは含まれていない



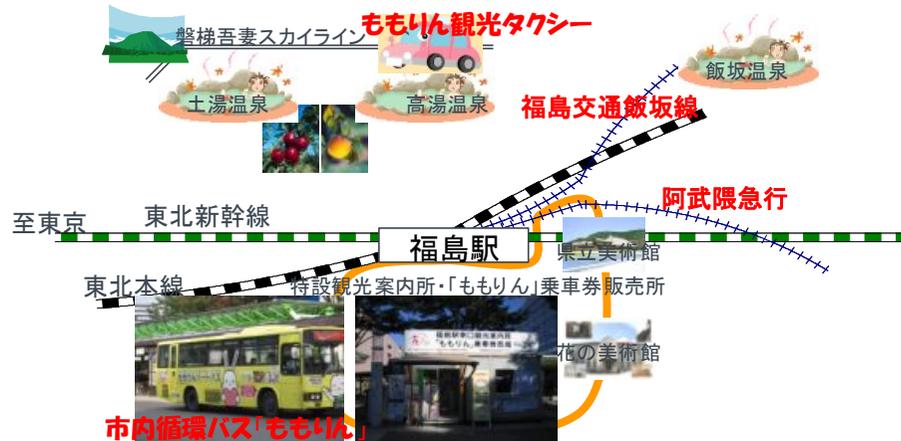
## ・観光施設と公共交通機関等の連携による公共交通機関の利用促進(福島市)

- 観光施設と公共交通機関の連携、公共交通機関相互の連携による観光客の公共交通機関利用促進策を検討するため、**実証実験**を実施。

- 実証実験期間: H19年10月20日～11月19日

- 実証実験項目:

- ・市内循環バス1日フリー乗車券の発売
- ・市内循環バスの愛称の付与
- ・ももりん観光タクシーの実施
- ・阿武隈急行線と市内循環バスとの1日共通乗車券(Aきっぷ)の発売
- ・福島交通飯坂線と市内循環バスとの1日共通乗車券(Iきっぷ)の発売
- ・これら利用者に対する観光施設入場割引、飲食店割引等の付与



## 実証実験の結果

市内循環バス1日フリー乗車券	474枚	市内循環バス1日乗車券について、特設販売所で417枚と圧倒的枚数を販売。県立美術館イベント期間中の1日平均販売数は期間後の3倍以上。
Aきっぷ	731枚	
Iきっぷ	85枚	
ももりん観光タクシー	149名	磐梯吾妻スカイライン等の紅葉が柱となったコースが人気。

観光施設の割引特典について、県立美術館で202名、花の写真館で73名が利用。